

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報
令和元年度



特別展「探検！両生類・は虫類の世界」会場風景

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は平成14（2002）年11月3日に開館しました。改元の年となった令和元年度は452,863人のお客様をお迎えすることができ、開館以来の総入館者数700万人を達成することができました。これもひとえに、当館の活動に多くの方々のご理解とご協力をいただいていた積み重ねによるものです。厚く御礼申し上げます。

当館は地球誕生からの自然の営み、そして、人の暮らしの移り変わりを「いのちのたび」と捉えて、過去から現在、そして未来へと至る活動を続けています。次の節目となる開館20周年に向けて、博物館の使命である標本資料の収集・整理保管・調査研究・展示・教育普及活動はもとより、より多くの皆様が楽しく学んでいただける博物館となるよう、職員一同これまで以上に研鑽を積み、職務に取り組んでいきたいと思っております。

ここに令和元年度の年報を刊行いたします。多くの方々に当館の様々な活動を知っていただき、これまで以上に地域に根ざしながら、情報を世界に発信できる博物館となるよう、積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和2年8月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 伊澤 雅子

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館…知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館…将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館…社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

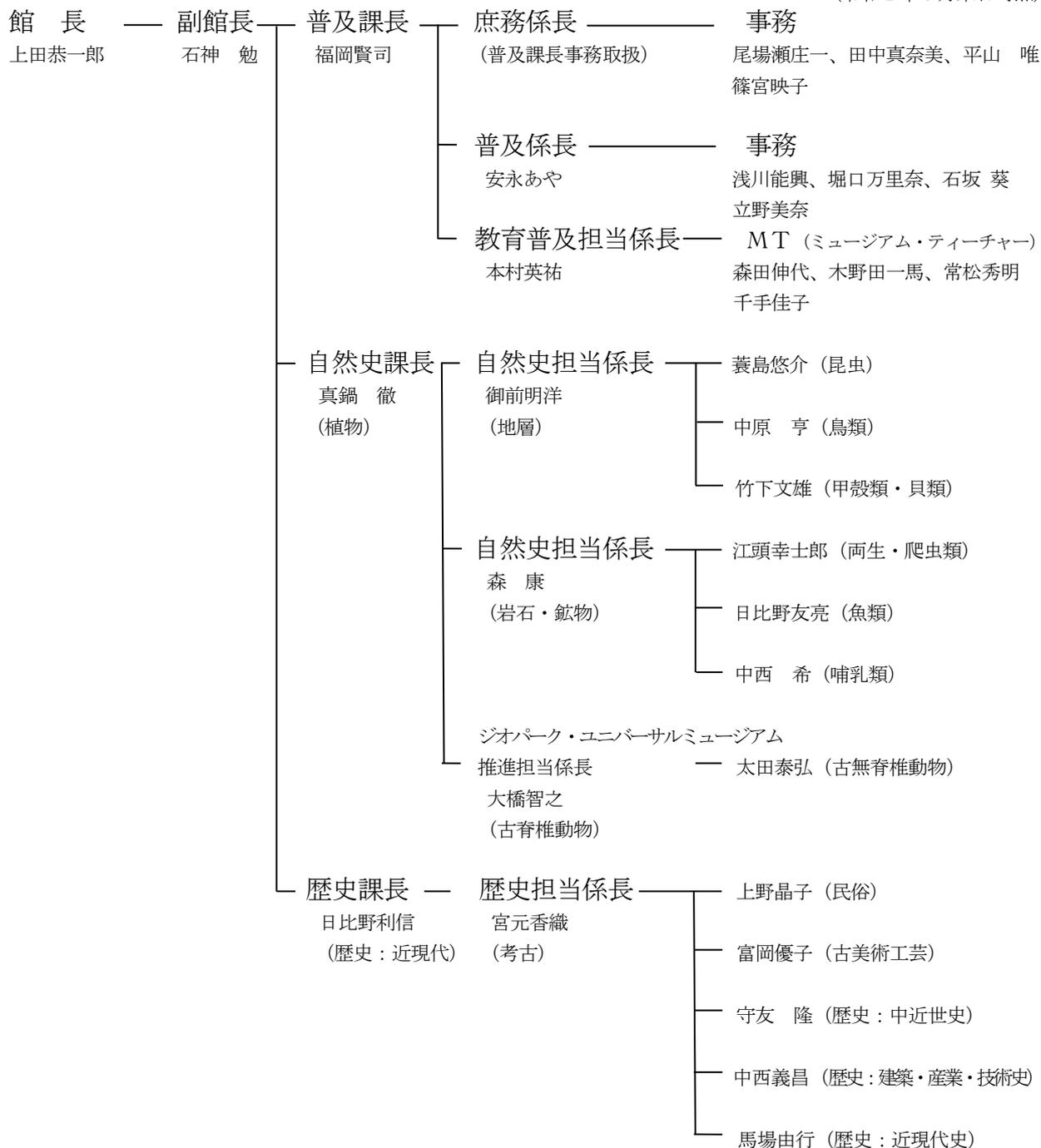
	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 令和元年度予算.....	3
4. 施設概要.....	4
5. 沿革.....	5
6. 入館者の状況.....	9
7. 視察受け入れ状況.....	10
8. 広報・報道実績.....	11
9. 特別展.....	13
10. 企画展など.....	18
11. その他の事業.....	24
12. 教育普及活動.....	28
13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	35
14. 自然史友の会の活動.....	37
15. 歴史友の会の活動.....	38
16. 資料の収集保存状況.....	39
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	41
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	42
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	44
20. 研究業績.....	47
21. 博物館刊行物.....	53

お断り：年度の途中にあたる2020年5月1日をもって平成から令和に改元されましたが、年報中ではすべて「令和元年度」と表記しています。

1. 組織・運営体制

(1) 令和元年度組織

(令和2年3月末日時点)



(2) 名誉館員

藤丸詔一郎 (2005. 4. 1)	戸来義臣 (2007. 4. 1)	税田昭徳 (2007. 4. 1)	藤井厚志 (2008. 4. 1)
岡崎美彦 (2010. 4. 1)	永尾正剛 (2011. 4. 1)	有川宜博 (2012. 3. 1)	上田恭一郎 (2013. 4. 1)
伊藤明夫 (2015. 4. 1)	山根明弘 (2016. 4. 1)	山家桂一 (2018. 4. 1)	簗本美孝 (2018. 4. 1)
下村通誉 (2018. 4. 1)	武石全慈 (2018. 4. 1)	馬場 稔 (2019. 4. 1)	松井和幸 (2019. 4. 1)

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 令和元年9月1日～令和3年8月31日）

会長	伊澤雅子	琉球大学理学部海洋自然科学科教授
副会長	岩松文代	北九州市立大学文学部教授
	井上龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
	緒方 泉	九州産業大学美術館教授
	近藤勝彦	北九州市立黒畑小学校校長
	杉山未菜子	福岡市経済観光文化局歴史資源活用係長
	染川香澄	ハンズ・オン プランニング代表
	富田幸光	国立科学博物館名誉研究員
	山本浩三	北九州市立守恒中学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館准教授

(2) 開催日時

令和元年9月20日 9:30～12:00

(3) 内容

- 1) 平成30年度事業実績について
 - ア 概要
 - イ 自然史課事業実績
 - ウ 歴史課事業実績
- 2) 博物館評価制度の導入について
 - ア 概要
 - イ 評価シートについて
- 3) 令和元年度事業計画について
 - ア 概要
 - イ 特別展開催計画
 - 夏の特別展「探検！両生類・は虫類の世界」
 - 秋の特別展「九州発！棟方志功の旅 彫り起こされた足跡と交流」
 - 冬の特別展「コレクション大集合～モノが語る私たちの暮らしと自然～」
 - 春の特別展「まるごと馬展～馬と人のキズナ～」
 - ウ 自然史課事業計画
 - ジオパーク活動推進事業
 - 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業
 - エ 歴史課事業計画
 - 東アジア友好博物館交流事業
 - 東田地区ミュージアムパーク創造事業
- 4) 質疑応答

3. 令和元年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	160,193	企画展・特別展開催経費	49,922
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,805	資料整備・調査研究経費	11,772
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	43,000	教育普及経費	2,570
		ジオパーク活動推進経費	1,427
		博物館維持管理経費等	259,336
計	204,998	計	325,027

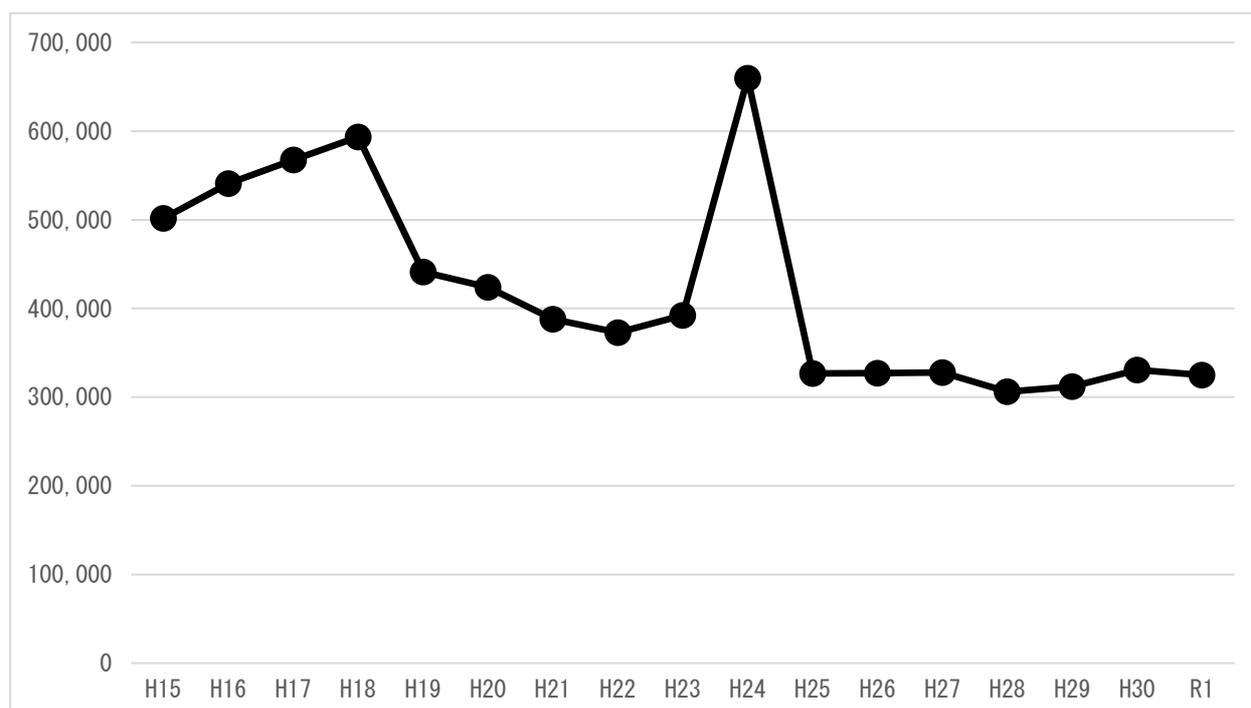
博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3開館		内、太陽光 発電設備整 備 32,000	内、太陽光 発電設備整 備 60,000	内、太陽光 発電設備整 備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1						
予算額	330,620	325,027						
備 考								

博物館予算(歳出)の推移(グラフ)

(単位：千円)



4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階

各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム (PM)	253	生物系研究室 (植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館 (リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室 (動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館 (バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示 (カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室 (前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム (乳幼児対象)	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム (小学生対象)	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室 S	30
		液浸標本処理室	30	会議室 R	30
情報部門	1,018	技工室	60	会議室 X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
ホール (オープンギャラリーを含む)	509	暗室 (前室を含む)	26		
ガイド館 (倉庫2を含む)	386	撮影室	41		
情報館	123	電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
		保存科学室	40		
探究部門	204	薬品室・特殊薬品室	25		
実習室	123	シャワー室	6		
講座室	81	器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506				
荷解室	96				
一時保管室	64				
組立室	52				
冷凍室・冷蔵室 (前室を含む)	49				
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221				
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫 (金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				サービス部門	463
				ミュージアムショップ	156
				休憩ルーム	206
				休憩デッキ	101
				供用部門	5,093
				合計	17,011

5. 沿革

昭和 50(1975)年	8月	北九州市立歴史博物館開館 (8/1)【歴史】
昭和 51(1976)年	1月	特別展「豊前修験道・英彦山展」【歴史】
	10月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石 ディプロミスタスが発掘される【自然史】
	10月	特別展「洞海湾の歴史」【歴史】
	10月	北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」 主催：北九州市教育委員会・北九州市産魚類化石展示実行委員会【自然史】
昭和 53(1978)年	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
	10月	マッコウクジラの生の骨が到着【自然史】
昭和 54(1979)年	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)【自然史】
昭和 55(1980)年	7月	特別展「日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～」【歴史】
昭和 56(1981)年	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)【自然史】
昭和 58(1983)年	8月	北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1)【考古】
	10月	特別展「北九州のまつり芸能」【歴史】
昭和 59(1984)年	9月	北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の 昆虫」展を開催【自然史】
	10月	特別展「北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～」【歴史】
	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
昭和 60(1985)年	10月	特別展「小倉藩創始 細川家の歴史展」【歴史】
昭和 61(1986)年	8月	開館5周年記念特別展 「中国の動物と恐竜の世界展」【自然史】
昭和 62(1987)年	10月	特別展「わが町の宝 北九州市の指定文化財展」【歴史】
昭和 63(1988)年	8月	開館5周年記念特別展 「北九州の中国陶磁展」【考古】
平成 2(1990)年	10月	特別展「関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～」【歴史】
平成 4(1992)年	3月	開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行【自然史】
平成 5(1993)年	4月	考古博物館友の会発足【考古】
	10月	開館10周年記念特別展「終末期の古墳展」【考古】
平成 7(1995)年	5月	展示解説ボランティア制度発足【考古】
	8月	戦後50周年記念特別展「北九州平和資料展～戦時下の市民の暮らし～」【歴史】
平成 8(1996)年	7月	展示解説ボランティア制度発足【自然史】
	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授)が、「環境」 を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田 地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 10(1998)年	8月	開館15周年記念特別展「西と東の縄文土器展」【考古】
平成 11(1999)年	6月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 12(2000)年	10月	特別展「伊能忠敬と九州展」【歴史】
平成 13(2001)年	3月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工【総合】
平成 14(2002)年	11月	北九州市立自然史・歴史博物館 開館 (小野勇一館長) (11/3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年	3月	開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
	4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871人)
	7月	特別展「発見! 虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
	9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
	10月	特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
	12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
平成 16(2004)年	1月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)

- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11：38日間)
- 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23：31日間：14,262人)
- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5：51日間：50,712人)
- 10月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26：87日間)
- 10月 企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28：52日間)
- 平成17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20：50日間：11,590人)
- 3月 特別展「なぜ？なに？ 動物ワールド」(3/19～5/8：51日間：26,638人)
- 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4：51日間：76,623人)
- 10月 企画展「鶏民芸品展～秋篠宮コレクション～」(10/8～11/20：44日間)
入館者100万人達成！(10/26)
- 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11：24日間：3,739人)
- 12月 特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31：99日間：207,397人)
- 平成18(2006)年 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28：30日間)
- 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3：51日間：76,008人)
- 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26：65日間)
- 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31：104日間：63,811人)
- 平成19(2007)年 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
- 7月 開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」
(7/7～9/2：58日間：96,103人)
- 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」
(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成20(2008)年 3月 入館者200万人達成！(3/22)
企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
- 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
- 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
- 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
- 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
- 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
- 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
- 平成20(2008)年 7月 特別展「恐竜ラボ2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
- 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
- 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
- 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？ なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
- 4月 伊藤明夫館長が就任
- 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
- 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
- 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
入館者300万人達成！(1/15)
- 2月 入館者300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
- 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)

- 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
- 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線～」
(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 12月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 平成24(2012)年 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
- 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：
25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
- 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
- 10月 特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」
(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
- 12月 リニューアル工事休館(12/3～3/22)
- 平成25(2013)年 3月 リニューアルオープン(3/23)
- 4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
- 7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者400万人達成！(7/25)
- 9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」
(9/14～11/4：52日間：20,990人)
- 12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」
(12/21～28, 1/2～2/11：49日間：24,852人)
- 平成26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)
年間入場者60万人超達成！(3/31：622,701人。過去10年間[H15～24]の最多は平成17年
度483,495人で、平均は363,379人)
- 3月 リニューアルオープン(3/23)
- 7月 特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
- 11月 特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
- 平成27(2015)年 3月 特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
- 4月 上田恭一郎館長が就任
- 7月 入館者500万人達成！(7/4)
入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：
102,123人)
- 10月 入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からiPS細胞まで～」
(10/10～1/11：90日間：20,058人)
- 平成28(2016)年 1月 特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：
6,535人)
- 3月 特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
- 7月 特別展「恐竜博2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
- 10月 特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
- 平成29(2017)年 1月 特別展「発掘された日本列島2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
- 3月 特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間
50,594人)
- 7月 開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3)
- 7月 開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)
- 7月 入館者600万人達成！(7/27)
- 10月 開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)
- 10月 開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：
11,436人)
- 12月 開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」
(12/23～2/25：61日間：37,227人)
- 平成30(2018)年 3月 特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)

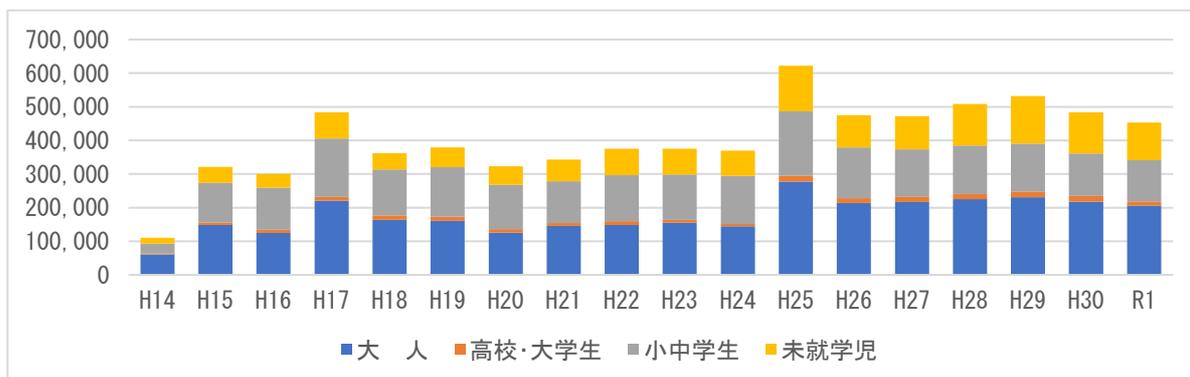
	7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
	10月	特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人)
	11月	東田ミュージアムパーク食の祭典2018(11/17～18)
	12月	特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」 (12/22～2/11：48日間：22,099人)
平成31(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12：58日間： 47,859人)
令和元(2019)年	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16：66日間：119,013人) 入館者700万人達成！(7/10)
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」(10/12～12/1：51日間： 8,456人)
	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11：49日間： 23,154人)
令和2(2020)年	2月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館(2/28～)

6. 入館者の状況

※平成 14 年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。

※平成 24 年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。

入館者 総数 (人)	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
	29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100%)	6,890,477	
R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100%)	7,343,340	



7. 視察受け入れ状況

令和元年度 視察訪問受け入れ状況

No.	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	4月17日	北九州市港湾空港局クルーズ・交流課	時事通信社関係者、下関市職員ほか	11
2	5月3日	北九州市市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室	英国ウェールズの高校生ほか	43
3	5月24日	北九州市議会事務局総務課	政令市市議会議長OB会関係者	6
4	6月6日	北九州小倉東ライオンズクラブ	公益社団法人国際IC日本協会及び北九州小倉東ライオンズクラブ関係者	8
5	7月19日	北九州市立中央図書館長会議	指定都市立図書館長会議	24
6	8月1日	長崎国際大学	長崎国際大学博物館学芸員課程学生ほか	18
7	8月2日	北九州市教育委員会指導第一課	前橋市教育委員会教育長ほか	2
8	9月3日	北九州市港湾空港局空港企画部	北九州市観光視察ツアー視察者ほか	23
9	9月6日	北九州市選挙管理委員会行政委員会事務局	総務省自治行政局関係者	3
10	10月11日	北九州市企画調整局国際部	タイ王国シーナカリン・ウィロート大学附属プラサンミット小学校	23
11	10月13日	北九州市企画調整局国際部	中国・大連市青少年訪問団	25
12	10月17日	北九州フィルム・コミッション	タイ王国関係者ほか	47
13	10月18日	北九州市立大学文学部	北九州市立大学学生及び教員	13
14	10月24日	公益財団法人山口市文化振興財団山口情報芸術センター	山東省文化芸術学校長ほか	2
15	11月27日	特定非営利活動法人九州海外協力協会	JICA青年研修事業研修員ほか	22
16	12月13日	北九州市企画調整局東京事務所	首都圏の大学生ほか	17
17	12月18日	群馬県立自然史博物館	群馬県立自然史博物館職員	9
18	2月8日	佐賀市環境政策課	東よか干拓ボランティアガイドほか	22
19	2月17日	釜石市復興推進本部	釜石市復興推進本部職員	5
20	3月4日	御所浦ジオツーリズムガイドの会	御所浦ジオツーリズムガイドの会会員	中止

合計 323

8. 広報・報道実績

(1) 令和元年度 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数
23件

(2) 令和元年度特別展等関連広報・報道状況記録

1) 春の特別展「獣は毛もの」関連（H31.4.1分から）

ア) 新聞	3誌	71件	エ) ラジオ	2社	45件
イ) 雑誌等	6誌	9件	オ) インターネット	12社	13件
ウ) テレビ	4社	31件			

2) 夏の特別展「探検！両生類・は虫類の世界」関連

ア) 新聞	4誌	120件	エ) ラジオ	6社	9件
イ) 雑誌等	20誌	32件	オ) インターネット	12社	15件
ウ) テレビ	3社	34件			

3) 秋の特別展「九州発！棟方志功の旅」関連

ア) 新聞	4誌	70件	エ) ラジオ	2社	2件
イ) 雑誌等	9誌	18件	オ) インターネット	11社	13件
ウ) テレビ	2社	149件			

4) 冬の特別展「コレクション大集合」関連

ア) 新聞	3誌	6件	エ) ラジオ	3社	3件
イ) 雑誌等	3誌	3件	オ) インターネット	1社	1件
ウ) テレビ	0社	0件			

5) 春の特別展「まるごとウマ展」関連（R2.3.31分まで）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

ア) 新聞	3誌	7件	エ) ラジオ	0社	0件
イ) 雑誌等	4誌	4件	オ) インターネット	0社	0件
ウ) テレビ	0社	0件			

6) その他(特別展以外)

ア) 新聞 4誌 26件

「ウシマンボウ化粧直し 北九州 国内最大3.3メートル剥製」(読売新聞、西日本新聞)

「恐竜標本すす払い 児童11人優しく丁寧に」(毎日新聞、読売新聞、西日本新聞) ほかに

イ) テレビ 9社 9件

「笑点特大号 座布団運んで35年! 山田隆夫が行く! 福岡・北九州パワースポット巡り旅」

(BS日テレ) ほかに

(3) 令和元年度 ホームページアクセス数

508,759件

(4) 令和元年度 SNS (twitter、facebook、instagram) での情報発信数
412 件

9. 特別展

(1) 「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」

期 間：平成31年3月16日（土）～令和元年5月12日（日）

58日間（次年度への継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人500円（団体400円）、高・大生300円（同240円）、小・中生200円（同160円）、未就学児無料

観覧者数：47,859名 ※会期を通しての総入場者数

担当学芸員：馬場 稔・中原 亨・中西 希

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館、毎日新聞社

後 援：福岡県教育委員会、NHK北九州放送局

協 力：北九州市立総合農事センター、琉球大学哺乳類生態学研究室、荒井秋晴

概 要

哺乳類の大きな特徴の一つとして、体表面に「毛」を持つことがあげられる。体毛には体をけがや紫外線から守り、体温をたもつ働きがある。また、季節によって色や模様などが変化する動物もいる。この特別展では、いろいろな毛をもった哺乳類の剥製標本や毛皮標本を数多く展示し、それぞれの特徴と役割を紹介するほか、鳥類の羽毛や爬虫類の鱗との比較も示した。

主な展示標本

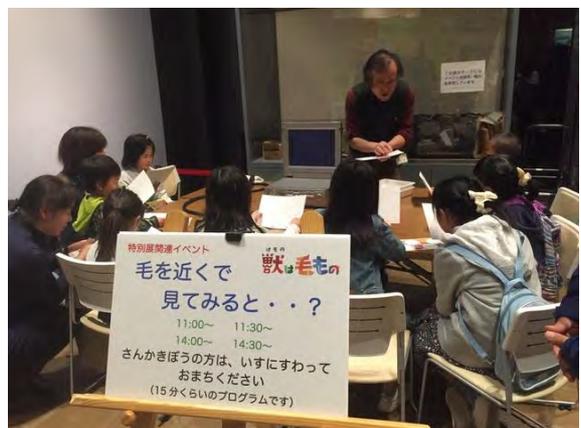
ジャコウウシ、ヒツジなどの長い毛をもつもの、イノシシやアルマジロなど硬く太い毛や甲羅状の皮膚をもつもの、ラッコやアザラシなどなめらかな毛をもつもの、ハリネズミやヤマアラシなど針状の毛をもつものなど、様々な哺乳類の剥製標本や毛皮標本約50種100点を展示した。また体験型の展示としてそれぞれの特徴をもった種類のさわれる標本を準備した。

特別展示として、北九州市立総合農事センターで飼育され市民に親しまれていた木曾馬「幸春号（愛称 さっちゃん）」の剥製標本と骨格標本を同時公開した。

関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を2回、デジタル顕微鏡で毛を観察するワークショップ「毛を近くで見ると・・・？」を4日間で8回、ライオンの剥製標本に座って記念撮影ができる「ライオン家族に仲間入り！」を4日間実施した。

（中原 亨・中西 希）



(2) 「探検！両生類・は虫類の世界」

- 期 間：令和元年7月13日（土）～令和元年9月16日（月・祝日）
66日間（うち8月15日は台風接近のため臨時休館）
- 会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
- 入 場 料：大人800円（団体640円）、高・大生500円（同400円）、
小・中生400円（同320円）、未就学児無料
- 観覧者数：119,013人
- 担当学芸員：江頭幸士郎
- 主 催：北九州市立自然史・歴史博物館、毎日新聞社、RKB毎日放送
- 後 援：福岡県教育委員会、NHK北九州放送局
- 協 力：ビッグベアーズフーズサービス
- 展示協力：岩国白蛇保存会、鬼山地獄、NPO北九州・魚部、北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会、京都大学西川完途研究室、高田爬虫類研究所、日本蛇族学術研究所、広島大学両生類研究センター、わんぱーくこうちアニマルランド、橋元浩一氏



概 要

両生類・は虫類の現生・化石標本約500種類を展示し、この仲間の多様性や進化の歴史、人間との関わりを紹介した。ワニの剥製やニシキヘビの骨格標本、オオサンショウウオやワニを含む約100種の生体展示、および触れる展示などを通して、知られざる両生類・は虫類の世界とその魅力を解説した。特に、2019年に新種記載された北九州産の両生類チクシブチサンショウウオを展示することで、身近なところにもまだ名前がついていない生物がいることを実感してもらえるようにした。夏の特別展では8年連続で観覧者数10万人を突破した。

主な展示標本

現生最大の爬虫類のひとつイリエワニの大型剥製（全長約4m）を含む各種ワニの剥製、各種ニシキヘビ・ボアやオオトカゲなど大型種の全身・部分骨格、世界の両生爬虫類を収集した橋元浩一氏の標本コレクションなどの各種実物資料、およびオオサンショウウオ（雑種）やイリエワニ、ニシキヘビ類、ワニガメといった大型種や、新種チクシブチサンショウウオなどの生体を展示した。また、イリエワニの皮のハンズオン展示や、両生爬虫類と人間文化の関りを表す各種の資料、世界各国の両生爬虫類グッズなどを展示した。

関連事業

関連イベントとして、ナイトミュージアム（2回）や学芸員によるギャラリートーク（4回）、特別講演会（1回）を開催した。また、会期中の火・木曜日に各種生体の食事の様子を見てもらう「えさやり見学」を、水曜日にはケヅメリクガメと触れ合える「タッチ The カメ」を実施した（お盆期間を除く）。その他、会場には塗り絵や記念写真コーナーを設けた。

（江頭幸士郎）



(3) 「九州発！棟方志功の旅—彫り起こされた足跡と交流—」

期 間：令和元年 10 月 12 日（土）～令和元年 12 月 1 日（日）
51 日間
会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
入 場 料：大人 800 円（団体 640 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、
小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料
観覧者数：8,456 人
担当学芸員：富岡優子・上野晶子
主 催：東田ミュージアムパーク実行委員会
後 援：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局
監 修：石井頼子（棟方志功研究家）
特別協力：一般社団法人棟方志功記念館、株式会社安川電機
協 力：赤坂有薫、一般社団法人明専会、大日本印刷株式会社、安
川オピアス株式会社、若松恵比須神社ほか 4 団体



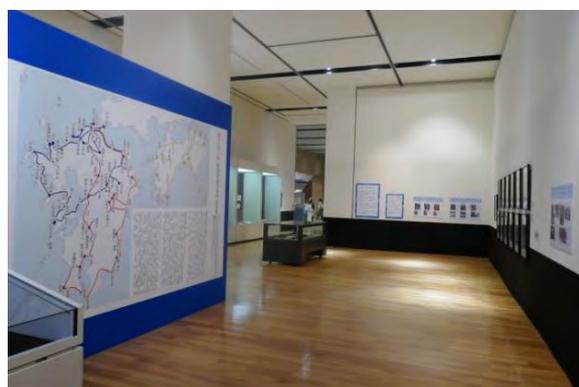
概 要

棟方志功（1903-75）は「世界のムナカタ」と国内外で高く評価された 20 世紀を代表する版画家である。棟方が九州初となる個展を昭和 29 年に北九州・小倉で開催したことはあまり知られてこなかったが、この個展を機に、棟方は北九州との関係を深めていった。本展では北九州を中心とする棟方の知られざる足跡と交流について、九州初個展、晩年の代表作「海道シリーズ」、安川電機との関係にスポットを当て、棟方の代表作や初公開作品を交えて紹介した。なお、本展示は東田地区ミュージアムパーク創造事業のうち、当館・北九州市環境ミュージアム・北九州イノベーションギャラリーで行った「版画・紙・印刷」の東田ミュージアムパーク三館連携企画展の中核イベントでもあった。

関連事業

特別展イベントとして、監修者で棟方志功研究家の石井頼子氏の講演会、担当学芸員による講座やギャラリートークを行った。10 月 26 日に開催した東田ミュージアムパークオータムフェスタ 2019 の関連イベントとして、担当学芸員と美術館学芸員のトークセッション、ハロウィン★ナイトミュージアムを開催し好評であった。またオープンギャラリーには、和紙に棟方作品を印刷した安川電機のカレンダーを使用した屏風や掛軸を展示し、これを手掛けた猪ヶ倉勝盛氏による表装の実演なども行った。

(富岡優子)



(4)「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」

期 間：令和元年12月21日（土）～令和2年2月11日（火・祝）
49日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：常設展料金のみ

観覧者数：23,154名

担当学芸員：真鍋 徹・宮元香織

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館



概 要

ある目的のもとで、長い年月をかけて収集された資料であるコレクションが、博物館には多数収蔵されている。本展示会では、博物館通算入館者数700万人突破を記念し、当館に寄贈され、常設展示していないコレクションの中から精選した約400点の資料を紹介し、博物館が資料を収集する意義を知っていただく機会とする。

主な展示資料

第1章では、私たちの暮らしを読み取ることができる資料として、襦袢（花嫁衣装）や甲冑（本小札縦色替二枚胴具足）、簪やその材料となった自然物などを紹介した。第2章では、かつての自然と歴史の姿を今に伝えることができる資料として、アンモナイトやアサヒガニの化石、アメリカザリガニや世界の毒ヘビの液浸標本、ヒミズなどのフラットスキン、オオサイチョウなどの剥製、門司文書や中村平左衛門日記などを紹介した。第3章では、かつて高等学校の授業で用いられていたと考えられるアホウドリ剥製などの教材用資料や、生徒の研究活動によって収集されたミシマサイコやノコギリソウなどのさく葉標本、夏井ヶ浜遺跡出土品などの遺跡からの採集品などを紹介した。また、解説パネルを主とした序章（および終章）では、資料収集の過程や、資料保存のための留意点などを紹介した。

関連事業

学芸業務や資料収集の意義について興味や関心を持ってもらうため、会期中オープンギャラリーにおいて歴史系ワークショップ「学芸員のお仕事体験」を2回、自然史系ワークショップ「レンジで植物標本を作ろう」を3回実施した。

(真鍋 徹・宮元香織)



(5) まるごとウマ展 ～ウマと人のキズナ～

期 間：令和2年3月20日（金）～令和2年5月10日（日） 52
日間（計画・未開催）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人500円（団体400円）、高・大生300円（同240円）、
小・中生200円（同160円）、未就学児無料

観覧者数：未開催

担当学芸員：大橋智之、宮元香織

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：福岡県教育委員会、NHK北九州放送局

学術協力：武 豊（JRA日本中央競馬会）、和田直己（山口大学共同獣
医学部生体システム科学）

協 力：海の道むなかた館、エルメス、小倉競馬場、佐々木基樹（帯
広畜産大学）、JRA日本中央競馬会、ZENNO MANAGEMENT、相
馬野馬追執行委員会、田川市石炭・歴史博物館、長瀬智之、
ニッケ商事株式会社 CAVALLO、（公財）馬事文化財団・馬の博物館、南相馬市博物館



概 要

古くから私たち人間にとって欠くことのできない動物で、人類の歴史に大きく影響を与えた動物であるウマが、どのように進化し、現在に至って多様化したのか、その体にはどのような特徴があるのか、人の祭りや暮らしとどのように関わってきたのかについて、貴重な標本や資料などをもとに紹介。自然史と歴史の双方から総合的に展示を構成する特別展。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、博物館が令和2年2月28日（金）から令和2年5月18日（月）まで臨時休館したことに伴い本展は開催しなかった。

主な展示資料

祖先種から現生種までのウマの化石、骨格、剥製等自然史系標本。遺跡から出土した馬具や兵馬俑、屏風等の歴史資料。絵画作品等の美術資料、競馬に関する資料等。その他、本展のために新たに作成した初公開標本等。

関連事業（計画のみ）

関連イベントとして、ナイトミュージアム（2回）や学芸員によるギャラリートーク（3回）、小倉競馬場バックヤードツアー（1回）の開催を予定していた。

（大橋智之・宮元香織）

【参考】令和元年度特別展総入館者数 198,482人

※但し2カ年度にまたがる春の特別展の観覧者数は会期を通しての総入館者数を記載しています。

10. 企画展など

(1) 「堀切辰一コレクション襦袢 暮らしを彩る縞」

期 間：平成31年4月1日（月）

～令和元年6月16日（日）

会 場：ぽけっとミュージアム No.9～11

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

庶民が用いた衣類や布類を通してその生活実態を探究する庶民生活史研究家堀切辰一氏の収集した古布コレクション「襦袢」についての企画展。今回は、コレクションの中から「縞」に注目し、色や幅の変化で作られだされる様々な縞柄の着物を紹介した。

縞の語源は室町時代から江戸時代にかけて海外から輸入された布が「島もの」などと呼ばれたことに由来するといわれており、江戸時代の奢侈禁止令により縞模様の着物は広く庶民に普及した。今回は、東南アジア辺りから輸入された渡唐棧を普段着に仕立て直した着物や、明治時代から大正時代にかけての庶民の着物・帯を展示した。また、堀切辰一氏は市内に残存する小倉織の収集、研究もおこなっていたことから、堀切辰一コレクションの中から小倉織を展示するとともに、小倉織伝承会の作品展示および機の実演をおこなった。

（上野晶子）



(2) 「大連・今昔の旅 2019」

期 間：令和元年7月6日（土）

～令和元年10月14日（月・祝）

会 場：ぽけっとミュージアム No.9

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

北九州市と大連市の友好都市締結 40 周年を記念した企画展。

大連市は遼東半島先端に位置する中国屈指の国際貿易都市である。19 世紀末からロシアが、引き続き日露戦争に勝利した日本が都市建設を進め、日本の満洲（中国東北地方）支配の拠点となった。その後の昭和戦前・戦中にかけて、日本から多くの人びとが訪れ、あるいは新天地を求めて移り住んだが、一方で、中国の人びとの多くが日本の植民地支配に苦しんだ。日本の敗戦と戦後の激動を経て、現在の大連市は高層建築が立ち並ぶとともに、歴史的建築物の保存・活用も進められ、魅力的な観光都市としても発展している。

大阪・神戸と大連を結ぶ日満連絡船（大連航路）が門司から発着するなど北九州市と大連市は歴史的な関係も深いことから、1979 年に友好都市となった。本展は北九州市と大連市の関係を紐解きながら、かつて日本の人びとがどのように大連を旅し、大連に暮らしたか、それは日中双方の人びとにとりどのような体験だったか検証した。また独自の歴史を有する大連市の現在の姿と観光地としての魅力についても紹介した。

（日比野利信）



(3) 「北九州の木製品—木と人々の暮らし—」

期 間：令和元年年7月6日（土）
～令和元年10月14日（月・祝）

会 場：ぽけっとミュージアム No. 10

入場料：常設展入場料で観覧可能

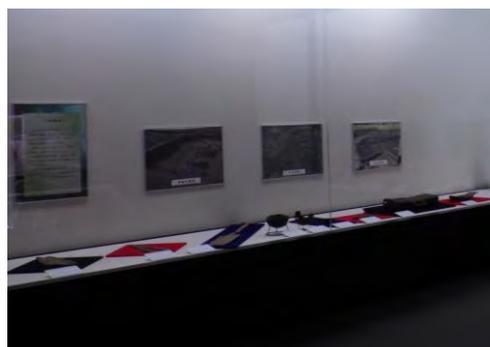
概 要

北九州市内の遺跡から出土し、保存処理が施された弥生時代から古墳時代にかけての木製品を紹介し、木とともに暮らしてきた祖先の姿や、丁寧に加工された木製品の美について3章に分けて紹介した。

第1章「木製品のまち北九州」では、市内から出土した“くし”の複製品や武器形木製品、琴などの珍しい木製祭祀具を紹介した。あわせて木製品が出土する環境などについても解説し、北九州市内の遺跡から多くの木製品が出土していることなどを説明した。

第2章「耕し食べる」では、なすび形木製品や鋤などの農具、まな板や杓子、ボウルや皿などの食器や調理具などの「食」にかかわる木製品を紹介した。第3章「木と暮らす」では、高床倉庫の階段や扉、ねずみ返しや机などの「住」にかかわる家具・建築部材とともに、紡織具を中心とする「衣」にかかわる木製品を展示した。

(宮元香織)



(4) 「郷土の織物 小倉織」

期 間：令和元年年7月6日（土）
～令和元年10月14日（月・祝）

会 場：ぽけっとミュージアム No. 11

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

先におこなった「堀切辰一コレクション 襦袢 暮らしを彩る縞」の一部を再構成し、継続展示したものである。小倉織の歴史、糸や織りの特徴、小倉織伝承会の活動を紹介するとともに、小倉織をモチーフに製作された小物類などを展示した。

前回に引き続き、小倉織伝承会による糸紡ぎや機織りの実演もおこなった。会期に夏休みが含まれていたこともあり、多くの来館者が足を止め、伝承会の説明を聞くなどの姿がみられた。

(上野晶子)



(5) 「変わるわたしたちの暮らし」

期 間：令和元年10月26日（土）
～令和2年2月27日（木）
★3月22日まで開催予定だったが
臨時休館に伴い終了

会 場：ぽけっとミュージアム No. 11

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

北九州市立小学校3年生の社会科教科書の単元、及び博物館の「昔の道具しらべ」のプログラムを基に、資料や写真の展示を通して当時の人々の暮らしや道具の変遷を伝える展覧会である。世代を超えた生活のつながりや現在の暮らし・道具について再考することを目指した。展示内容は歴史課と普及課MTで協議しながら計画した。主な構成は以下のとおりである。

①昔の暮らし（昭和20～40年代の部屋再現）：6畳程度の居間を再現し、その当時の家具・道具を展示。デジタルモニターを組み込んだ当時のテレビを設置し、白黒映像を流すことで当時のテレビの雰囲気を与えた。／②道具のうつりかわり：パネルや実物資料を用いて、大正～昭和10年代、昭和20～40年、少しむかし～現在の3つの時代に分けて家具・道具の変遷を比較して考えることができるよう展示した。現代とは大きく形・名称が変わっている道具などは、どのように変わっているかを考えるクイズ形式のキャプションを設置した。／③昔の遊び（ハンズオンコーナー）：小学生以下の子どもを対象にしたハンズオン展示、むかし遊びのコーナーを設置した。／④北九州市内各地で行われている身近な伝統行事を紹介するパネルを展示した。

（中西義昌）



(6) 「小笠原騒動と白黒騒動—小倉藩小笠原家の御家騒動」

期 間：令和元年10月26日（土）
～令和2年2月16日（日）

会 場：ぽけっとミュージアム No. 9・10

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

小倉藩小笠原家における御家騒動、小笠原騒動と白黒騒動の真相に迫る展覧会。ぽけっとミュージアムNo. 9では5代藩主小笠原忠苗の時代の「小笠原騒動」、No.10では6代藩主小笠原忠固の時代の「白黒騒動」の展示を行い、全65件83点の資史料を展示した。

会期中の11月、平成中村座小倉城公演夜の部で「小笠原騒動」が演目の一つに取り上げられたこともあり、市民の関心が高まっている時期に「芝居の筋書きとは異なる、史実の小笠原騒動・白黒騒動はどのようなものだったか」を紹介できた。

これまでの展覧会では、御家騒動はなかなか取り上げられなかった。史料が残りやすく、また信頼できる史料が少ないといった理由のためであろう。本展では、パネル・チラシに騒動当時の小倉藩小笠原家の略系図・家臣団の関係図を掲載・紹介し、また騒動の主要人物の肖像画といった図像資料や、市内の関連史跡の写真なども参考展示することにより、観覧者により一層理解を深めてもらえるよう努めた。

加えて、会期中の11月16日（土）、1月19日（日）、2月6日（木）にギャラリートークを実施した。3回でのべ90名の参加があり、関心の高さがうかがえた。



より詳しい概要については、当館研究報告B類歴史第17号（2020年3月発行）掲載の守友隆「小倉藩小笠原家の御家騒動に関する資料の紹介—企画展『小笠原騒動と白黒騒動』より—」を参照していただきたい。

（守友 隆）

（7）「世界遺産「明治日本の産業革命遺産」企画展2～炭都三池～」

期 間：令和2年2月22日（土）
～令和2年2月27日（木）
★3月22日まで開催予定だったが
臨時休館に伴い終了

会 場：テーマ館「明治時代以降の北九州」

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録4周年を記念して、「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議が主催し、本市と大牟田市・中間市および九州歴史資料館を巡回する企画展。昨年度に開催した「鉄都八幡」に続いて、今回は石炭産業特に「炭都」と呼ばれた三池（大牟田市・荒尾市）を中心に取り上げて、大牟田市石炭産業科学館や口之津歴史民俗資料館（口之津港は三池港が整備される前の三池炭鉱の石炭積出港）などの所蔵資料を展示した。

また当館独自の展示として、大牟田市石炭産業科学館が収蔵する古写真を追加し、「炭都」として発展した大牟田市のまちなみや暮らしの風景についても紹介した。

（日比野利信）



テーマ展示

（8）「渋沢栄一と北九州」

期 間：令和元年7月1日（月）
～継続中

会 場：テーマ館「明治時代以降の北九州」

入場料：常設展入場料で観覧可能

概 要

令和元年4月に新1万円札の肖像になることが発表された実業家の渋沢栄一は北九州の様々な企業にも関わり、港湾（門司港と若松港）の整備や鉄道（現在のJR鹿児島本線・筑豊本線・日田彦山線）の敷設を中心として、大株主として資金協力するとともに、指導者・調整役として地元の実業家たちと協力しながら、北九州の工業発展とその基盤整備に重要な役割を果たした。

北九州を代表する企業家で、渋沢とも関わりの深い安川敬一郎の関係資料には、渋沢が安川に宛てた書簡10通や、渋沢が安川に贈った書がある。本テーマ展示では10通の書簡を1通ずつ初公開して（継続中）、渋沢と安川の交流の一端を浮き彫りにし、北九州の産業発展のありようを考察している。

（日比野利信）

(9) 自然史ぽけっとミュージアム展示

期 間 : 継続中

会 場 : ぽけっとミュージアム No. 1~8

テーマ

ぽけっとミュージアム No. 1 : 地球と生命

ぽけっとミュージアム No. 2 : シーラカンスと海のおいたち

ぽけっとミュージアム No. 3 : 大連市との交流

ぽけっとミュージアム No. 4 : アンモナイト

ぽけっとミュージアム No. 5 : 世界の海の貝

ぽけっとミュージアム No. 6 : カエルとサンショウウオ

ぽけっとミュージアム No. 7 : 昆虫の世界

ぽけっとミュージアム No. 8 : きたきゅうしゅうの多様な大地、地震のしくみ

年末（クリスマス）および年始（干支・絵馬）展示

〔クリスマス展示〕

期 間 : 令和元年12月1日（日）～令和元年12月25日（水）

会 場 : 生命の多様性館

担 当 : 中西 希

概 要 : 来館者サービスの一環として、クリスマスシーズンにサンタクロースと繋がり深いトナカイを紹介し、記念撮影を行えるように展示を行った。

展示標本 : トナカイの剥製がプレゼントを乗せたそりを引いているポーズで展示し、サンタクロースのコスチュームを使用して来館者が記念撮影を行えるようにした。



クリスマス展示の状況

[干支・絵馬展示]

期 間：干支展示 令和元年12月25日（水）～令和2年1月31日（金） 絵馬展示 令和2年1月2日（木）～2月11日（火・祝）

会 場：オープンギャラリー

担 当：中西 希・森田伸代

概 要：博物館新館オープンから、リニューアルオープンのための休館時を除き毎年その年の干支にちなんだ展示を12月末から1月に行っている。本年度は令和2年の干支（子）にちなみ齧歯類の標本を展示した。また、新年号になり初めてのお正月を迎え、色々な思いや願いをもちながら明るい気分でお客様にご来館されことをふまえ、縁起の良い招き猫の横で絵馬を書いたり、記念撮影を行えるように展示を行った。

展示標本：干支展示では哺乳類で最も多くの種数を占める齧歯類の多様性を紹介するために、小型のハツカネズミから大型のカピバラ、木を登るエゾリス、空を滑空するムササビを展示した。絵馬展示では、招き猫（2014年春の「まるごと猫展」で作成）を2体展示し、その間で記念撮影が行えるようにした。また、手作り絵馬を680枚用意し、ブースを設けて来館者が願い事や目標などを記入できるようにした。その後、招き猫の横に絵馬をかけて頂いた。

（中西 希）



干支展示状況



絵馬展示状況

1 1. その他の事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。現在の主要事業は隔年での「巡回展」の開催で、「東アジアの生活文化」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を構成し、他の2館に巡回するものである。平成28年度に北九州が「衣」を担当して特別展を巡回開催し、平成30年度は旅順博物館が企画する「食」を担当して特別展を巡回開催した。

令和元年度は当館において、7月16日（火）に実務者会議、10月29日（火）に館長会議を実施した。実務者会議においては仁川広域市立博物館より、巡回展「アンチュー女性たちの空間」についての展示内容ならび開催日程等の説明があった。展覧会についての質疑応答の後、具体的な展示資料の検討もおこなった。また、秋に開催予定の館長会議の内容についても調整した。

館長会議は10月29日（火）に実施した。巡回展「アンチュー女性たちの空間」についての説明の後、旅順、当館による各国の住文化紹介を兼ねた報告がおこなわれた。旅順博物館は「大連出土の陶屋にみる中国漢代の屋根形式」、当館は「日本の住まいとくらし」と題してそれぞれ学芸員が発表した。

続いて、巡回展にかんする協議、次年度の仁川広域市立博物館における実務者会議ならびに館長会議の日程についての確認、今後の東アジア友好博物館の方向性等について協議した。

（宮元香織）



仁川広域市立博物館による報告（実務者会議）



実務者会議（7月16日）



旅順博物館による報告（館長会議）



館長会議（10月29日）

(2) ジオパーク活動推進事業

平成30年度に引き続き、ジオパーク活動の普及に向けた取り組みを継続した。本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、より魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイト・イベント予定を紹介するジオパークホームページの維持管理などを行った。また、日本ジオパークネットワークや九州ジオパーク連絡会主催の事業に参加し他地域との交流と情報収集につとめた。

主要事業と経過

1) ジオパーク普及講座の実施：

室内講座 (1回実施)

野外観察会 (ジオツアー、ジオハイキング：5回実施、2回雨天中止・1回新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

参加者合計 171名

2) ジオパークホームページの運営 (<http://www.kitakyushu-geo.jp>)、アクセス解析の実施

3) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

- ・日本ジオパークネットワーク通常総会参加 (令和元年5月27日、東京都)
- ・第16回九州ジオパーク連絡会参加 (令和元年8月20日・21日、宮崎県えびの市)
- ・第10回日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会参加 (令和元年11月1日～3日、大分県大分市・豊後大野市)

(太田泰弘、大橋智之)



(3) 東田ミュージアムパーク創造事業

自然史・歴史博物館は東田地区にある環境ミュージアムやイノベーションギャラリー（KIGS）、美術館や児童文化科学館などと相互連携して、東田ミュージアムパーク実行委員会の中核館として、平成30年度から5年間で、文化庁の「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受け「北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業」を実施している。

2年目の令和元年度は、第1に、東田の三館が連携した企画展を開催し、関連事業をおこなった。具体的には、中核館である自然史・歴史博物館の秋の特別展「九州発！棟方志功の旅 彫り起こされた足跡と交流」のテーマ（版画）を基軸として、KIGSが「いろいろひろがる印刷展」（印刷）、環境ミュージアムが「イノベーションで拓く持続可能な紙の未来～みんなで作る小さな紙の再生工場～」(紙の再生)というように、他の2館が独自性を活かしつつ中核館に寄り添って同時開催した。会期中には各館の担当者による「3館展示ガイドツアー」を2回実施した。さらに博物館と美術館の学芸員によるトークセッションを実施した。2年目はさらに各館の独自性を活かしてテーマや内容面での連携の可能性を追求したのである。

第2に、小学校3年生を対象に、美術館が「はじめての美術館」をコンセプトとして、美術館を知り、芸術への関心を喚起するためのミュージアムツアーを実施し（130校）、そのうちの一部（29校）については、さらに社会科の学習支援として、博物館で昔の道具と暮らしの体験学習を加えたプログラムを実施した（参加者数8,005名）

第3に、東田大通り公園を中心に、各施設が参加するオープンスペースイベントを春・秋2回実施し、施設間の連携による地区の賑わいづくりを試みた。春（5月12日）は延べ2,344人、秋（10月26日）は延べ2,131人が参加した。

第4に、地区の多言語化事業に取り組み、博物館においてアプリを活用し、展示解説を多言語で閲覧できるシステムを構築した。また北九州市立大学の企画製作のもとで、地区の地図を軸とする多言語化リーフレットを作成した。

第5に、地域の歴史資源アーカイブ構築の一環として、博物館が所蔵する地図・絵葉書および中央町の銘菓「八幡饅頭」の鶴屋関係資料について、写真撮影やスキヤニングとデータベースの作成をおこなった。ただし関連シンポジウム「産業都市から環境未来都市へ 北九州市の軌跡【歴史】【技術】【文化】」については、コロナ禍により実施できずに終わった。

なお3年目の令和2年度には、本事業は「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」に衣替えされる。そのなかで事業の継続と拡充を図っていくことになる。

(日比野利信)



(4) 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業は、博物館による国内外のネットワークを活用し、単独の博物館ではなし得ない新たな取り組みを広め、日本が誇る貴重な未来へのレガシーを継承・発信し、博物館の振興を図ることを目的とし、文部科学省生涯学習局が実施委託の公募を開始した事業である。

平成30年度に引き続き、本公募に対し、兵庫県立人と自然の博物館が事業推進担当館となり、北海道博物館、栃木県立博物館、三重県立博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、大阪市立自然史博物館、きしわだ自然資料館、伊丹市昆虫館、国立科学博物館および当館による実行委員会で、課題「自然が生み出す日本の色を歴史的建造物で演出する」を申請し、採択された。

本課題にかかる事業として、国内外からの ICOM 京都大会（令和元年9月1日～9月7日）参加者にもご覧いただき、新しい展示技法を発信することができるよう、令和元年8月30日（金）から9月16日（月・祝）の間、京都市指定有形文化財に指定された町屋「野口家住宅花洛庵」において、「Japan Color Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」と題した企画展を実施した。この展示会では、歴史的建造物がもつ空間の趣と自然史標本のもつ美しさを融合させ、日本の自然と文化の関わりを伝える4年間のシリーズ展示事業の総括として、『色』を切り口に、美しい色をした日本産の生物や岩石・鉱物、それらを用いて作られた工芸品、色の名前になった動植物、日本画と岩絵の具と筆、植物染色・きのこ染色の布などを紹介することで、日本の自然と文化との関わりを紐解いた。

また、以下の関連セミナーを実施した。

- ①日本の色を染める 開催日：2019年8月31日、会場：本能自治会館、講師：吉岡幸雄氏（染司よしおか5代目当主）、参加者：81名
- ②恐竜の色はどうやって復元するのか 開催日：2019年9月1日、会場：花洛庵、講師：小田隆（大阪芸術大学）・栗山武夫（兵庫県立大学）・三枝春生（兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館）、参加者：33名
- ③陣羽織の羽根は誰のもの？ 開催日：2019年9月7日、会場：花洛庵、講師：齋藤彰（大阪大学）、参加者：15名
- ④みどりとミドリ 開催日：2019年9月14日、会場：花洛庵、講師：岩槻邦男（兵庫県立人と自然の博物館名誉館長）、参加者：36名

（真鍋 徹・蓑島悠介）



1 2. 教育普及活動

(1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第 2 の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の 3 つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

- 博物館への誘致活動
修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイドダンス DVD、パンフレット類の送付及び旅行会社への PR 活動
- 情報発信による博物館利用の案内
・情報誌「いのちのたび」を月 1 回、保育所（園）・幼稚園向けの情報誌を年 2 回発行
・博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料の整備
各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など
- 体験学習プログラムの提供
化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり
- 授業づくり支援
「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等
- 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ等
- 環境アクティブ・ラーニング（北九州市教育委員会主催の市内小学校 4 年生を対象とした体験活動）
- ミュージアムパーク・ツアー（市内小学校 3 年生を対象とした体験活動）

3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（20 名を定員として前期 6 回、後期 6 回で学芸員による講話や体験学習を実施する。）
- 東田サマースクール（夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー（KIGS）、環境ミュージアムと合同で全 3 期の体験学習を実施する。）

【令和元年度 学校関係利用状況】

○ 誘致活動実績

誘致先	福岡県	山口県	大分県	広島県	岡山県	長崎県	佐賀県	愛媛県	高知県	香川県	熊本県	合計
訪問社 教	18	47	36	8	7	14	7	9	7	5	9	167

○ 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	183	629	57	37	41	947
人数	9,620	45,154	4,753	1,853	1,099	62,479

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
学校数	16	5	12	7	40
人数	1,193	147	623	227	2,190

授業	昔の道具調べ	ミュージアムパーク・ツアー	土地のづくり		環境アクティブ・ラーニング	合計
			館内授業	出前授業		
学校数	19	29	4	12	22	86
人数	972	1,162	187	985	1,060	4,366

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回数	前期6回 後期6回	3期
参加者数	各回20名のべ240名	各期25名 計75名

【令和元年度 その他団体利用状況】

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
団体数	13	5	8	7	33
人数	465	92	219	105	881

※ その他団体…市民センター、学童保育クラブ、子ども会 等

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を21回企画した。悪天候による中止が3回、新型コロナウイルス感染拡大防止のための中止(臨時休館)が1回あり、17回実施した(野外観察会:3回、室内講座:9回、たいけん教室:5回)。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	令和元年5月12日	日	33
野外観察会	ジオハイキング「探検!化石の島:藍島」	中止	-	-
野外観察会	ジオハイキング「化石と地質のたのしみ方」	令和元年8月25日	日	40
野外観察会	ジオハイキング「恐竜時代の大地!皿倉山ウィーキング」	令和元年10月6日	日	17
室内講座	恐竜教室「アースモールの恐竜たち」	令和元年6月8日	土	27
室内講座	昆虫標本作製教室	令和元年6月9日	日	38
室内講座	顕微鏡で見る美しい鉱物	令和元年6月9日	日	28
室内講座	植物細密画を描いてみよう!	令和元年7月7日	日	24

室内講座	植物細密画を描いてみよう！	令和元年10月27日	日	10
室内講座	恐竜この1年	令和元年12月7日	土	25
室内講座	恐竜すす払い	令和元年12月25日	水	11
室内講座	ジオ講座「小さな化石にふれてみよう！」	令和2年1月12日	日	13
室内講座	透明標本で骨のでき方をみてみよう！	令和2年1月19日	日	22
たいけん講座	ジオ体験「ジオの恵み：合馬のたけのこ！！」	平成31年4月21日	日	51
たいけん講座	ジオハイキング「初夏の平尾台を楽しむスペシャル体験！」	中止	-	-
たいけん講座	ジオハイキング「生命の進化をたどるミニ・ジオハイキング」	令和元年9月15日	日	10
たいけん講座	博物館のそばにやってくる野鳥を見てみよう	令和元年10月13日	日	6
たいけん教室	博物館で秋の植物を楽しもう	令和元年11月10日	日	1
たいけん教室	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう！	令和元年2月23日	日	17
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	中止	-	-
バスハイク	ジオツアー「学芸員とめぐる北九州周辺の化石産地と代表的地層！」	中止	-	-

合計17回 373人

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
室内講座	近世文書読み方入門講座	平成31年4月～令和2年2月	第4水	55(のべ605)
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く～帆柱山城跡～	平成31年4月14日	日	11
たいけん講座	若武者に変身！	令和元年5月5日	日・祝	72
室内講座	ミニ掛軸を作ろう	令和元年7月21日	日	9
室内講座	子どものための小倉織講座	令和元年9月21日	土	9
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く～小倉城跡～	令和元年11月10日	日	10
室内講座	昔のくらしと調味料	令和2年2月1日	土	13

合計7回 729人

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍のたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう！	令和元年7月31日	水	31
いのたび自然塾	どんぐり祭り！たべよう・あそぼう	令和元年11月9日	土	29
いのたび自然塾	もうすぐお正月！オリジナルしめ縄作り	令和元年12月21日	土	24

合計3回 84人

4) 特別展の普及講座等

特別展に関連した講座等として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
関連イベント	ワークショップ「毛を近くで見ると・・・？」	平成31年3月31日、4月7日、4月14日、 令和元年5月12日	日	140

関連イベント	春の特別展 ナイトミュージアム	平成31年3月23日、4月20日	土	863
関連イベント	夏の特別展 ギャラリートーク	令和元年7月26日、8月9日、8月23日、9月7日	金・土	200
関連イベント	夏の特別展 特別講演会	令和元年8月4日	日	86
関連イベント	えさやり見学	令和7月16日、18日、23日、25日、30日、8月1日、6日、8日、20日、22日、27日、29日、9月3日、5日、10日、12日、14日、15日、16日	日・月・火・木・土	6,200
関連イベント	タッチ The カメ	令和元年7月14日、17日、24日、31日、8月7日、21日、28日、9月4日、11日、14日、15日、16日	日・月・水・土	4,350
関連イベント	夏の特別展 ナイトミュージアム	令和元年7月20日、8月10日	土・日	1,568
関連イベント	秋の特別展オープニング記念講演会「旅の人 棟方志功」	令和元年10月12日	土	107
関連イベント	秋の特別展 ギャラリートーク	令和元年10月19日、11月3日	土・日	56
関連イベント	トークセッション 博物館×美術館「棟方志功からの想像力」	令和元年10月26日	土	29
関連イベント	ハロウィン☆ナイトミュージアム	令和元年10月26日	土	459
関連イベント	学芸員とめぐる東田地区 秋の特別展ガイドツアー	令和元年11月2日、11月17日	土・日	7
関連イベント	講座「北九州と棟方志功」	令和元年11月9日	土	131
関連イベント	北九州・技の達人が語る「安川カレンダーと表装」	令和元年11月23日	土・祝	83
関連イベント	学芸員のお仕事体験	令和元年12月22日、令和2年1月12日	日	12
関連イベント	レンジで植物標本を作ろう	令和2年1月4日、1月26日、2月9日	土・日	45

合計 58 回 13,473 人

5) その他講座等

700万人突破記念として、8月23日（金）から24日（土）にかけて、1泊2日のキャンプイベント「ダイナソードリームキャンプ」を実施した（参加者10名）。

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員過程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した5日間と10日間を学生が選択。

* 1期：8月6日（火）～8月17日（土）、日曜・月曜休講の10日間

・人数：5名（うち4名は5日間）

・所属大学：広島大学1名、東亜大学2名、九州産業大学1名、宮崎大学1名

* 2期：8月27日（火）～9月7日（土）、日曜・月曜休講の10日間

・人数：9名（うち6名は5日間）

・所属大学：北海道大学1名、山口大学1名、北九州市立大学1名、福岡大学3名、九州産業大学1名、長崎国際大学1名、琉球大学1名

2) 歴史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、学芸員が分担して指導をおこなった。

- ・期間：8月20日（火）～8月24日（土）5日間
- ・人数：5名
- ・所属大学：北九州市立大学2名、京都女子大学1名、福岡大学1名、三重大学1名

（４）職場体験・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行った。

1) 職場体験受け入れ

- ・鎮西敬愛学園敬愛中学校（令和元年7月10、11日 4名）
- ・西南女学院中学校（令和元年8月1、2日 4名）
- ・岡垣町立岡垣中学校（令和元年9月5、6日 4名）
- ・北九州市立中央中学校（令和元年10月10、11日 4名）

2) 職員等研修受け入れ

- ・文部科学省高等教育局学生・留学生課（令和元年12月4日 1名）

3) プレ・インターンシップ受け入れ

- ・福岡県立大学（令和元年8月26日～30日 3名）

（５）外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学校や市民センターなど社会教育機関ほか外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行った。

1) 普及課

該当なし

2) 自然史課

33件：市内の小学校や県内の高等学校、帆柱自然講演愛護会や日本野鳥の会北九州支部、北九州・魚部、ふくつ環境トラスト運営協議会などのNPO団体をはじめ、九州地方環境事務所や森林総合研究所、JICAなどの機関、岐阜大学や山口大学、梅光学院大学、北九州市立大学、九州大学、福岡大学、長崎国際大学などからの依頼を受け、自然史や博物館学に関する講義や講演などを行った（大学の非常勤講師を含む）。

3) 歴史課

21件：市の新規採用職員研修のほか北九州市社会科教員研修、小倉北警察署署員研修、穴生学舎および周望学舎（年長者大学校）、八幡西生涯学習総合センター、各市民センター、北九州文学サロン、北九州観光市民大学、長崎街道小倉城下町の会、かんだ郷土史会や、北九州市立大学で、北九州市の歴史と文化、小倉城下町、近代港湾、明治日本の産業革命遺産、渋沢栄一、小倉のキリシタン、北九州の古墳、シュガーロード、棟方志功、長崎街道、小笠原騒動と白黒騒動など様々なテーマで講演や講義を行った。

(6) 団体・委員会への就任依頼

1) 普及課

上田恭一郎

- ・和歌山県立自然博物館博物館協議会委員
- ・同博物館評価部会委員
- ・日本鱗翅学会評議員
- ・日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員

2) 自然史課

真鍋 徹

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県）
- ・広谷湿原保全方針検討委員会委員（福岡県）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員クマタカ保全検討部会（水資源機構）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（水資源機構）
- ・ナショナル・バイオリソース・プロジェクトにおける「情報発疹体制の整備とプロジェクトの統合的推進」事業協力者（国立科学博物館）
- ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- ・日本景観生態学会副幹事長（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）

森 康

- ・日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

御前明洋

- ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会将来計画委員会委員（日本古生物学会）

太田康弘

- ・美祢市立博物館等将来構想検討委員会（美祢市教育委員会）
- ・新科学館・藤田哲也博士関連展示を考える懇談会委員（新科学館・藤田哲也博士関連展示を考える懇談会）
- ・日本洞窟学会事務局長（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟月洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会ケービングジャーナル編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本地質学会古生物部会・世話人（日本地質学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

蓑島悠介

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- ・日本昆虫学会英文誌編集専門委員（日本昆虫学会）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）

- ・日本甲虫学会和文誌編集委員（日本甲虫学会）

江頭幸士郎

- ・平成 31 年度環境省レッドリスト見直しに係る調査員（環境省）
- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・平成 31 年度環境省レッドリスト見直しに係る調査員（環境省）
- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会若手の会会長（日本魚類学会）
- ・日本動物分類学会和文誌編集委員（日本動物分類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・平成 31 年度環境省レッドリスト見直しに係る調査員（環境省）
- ・猛禽類調査技術指導 2 件（国土交通省福岡国道事務所）
- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）
- ・2019 年度日本鳥学会ポスター賞審査委員会委員長（日本鳥学会）

中西 希

- ・令和元年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業ワーキンググループ委員（環境省）
- ・平成 31 年度マングース対策事業検討委員会委員（沖縄県）
- ・平成 31 年度外来種対策事業（イタチ対策）作業部会委員（沖縄県）
- ・北九州市人と動物の共生社会推進懇話会委員（北九州市）
- ・竹富町西表島エコツーリズム推進協議会委員（竹富町）

竹下文雄

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）

3) 歴史課

日比野利信

- ・福岡市総合図書館文書資料収集審査委員（福岡市教育委員会）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県教育委員会）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

上野晶子

- ・戸畑祇園大山笠振興会 保存委員会委員

守友 隆

- ・福岡市史編集委員会近世専門部会調査委員（福岡市）
- ・新修宗像市史編集委員（宗像市）
- ・九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門学外研究員（九州大学）

中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

(1) シーダー組織の活動

1) 人数 (平成31年4月1日現在)

- ・ 登録人数 58名 [男性 24名 女性 34名]
- 20代 (1名) 30代 (1名) 40代 (0名) 50代 (5名)
- 60代 (21名) 70代 (21名) 80代 (8名) 90代 (1名)

2) 活動実績

- ・ 延べ日数 323日
- ・ 延べ活動回数 2,651回 (平均 45.7回/人)

3) 活動内容

[展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

[講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

[演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

4) 研修

- ・ およそ毎月1回の学芸員との「シーダーゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

実施日		人数	講 話 題	話者
第164回	5月23日(木)	15名	甲殻類の行動生態学について ネコ科の特徴と日本のヤマネコ	竹下文雄 中西 希
第165回	6月27日(木)	24名	木村恒久コレクション 布を作るための道具たち	森 康 上野晶子
第166回	7月17日(水)	26名	「探検！両生類・は虫類の世界」解説	江頭幸士郎
第167回	8月22日(木)	22名	「北九州の木製品～ぼけっとミュージアムNo.10の展示より」 「文化財」である「梅化石」を通して「天然記念物」を考えてみた	宮元香織 太田泰弘
第168回	9月27日(金)	19名	芦屋層群と化石 主にインバウンドに向けた歴史系常設展の展示解説の可能性	御前明洋 日比野利信
第169回	10月16日(水)	23名	「九州発！棟方志功の旅 彫り起こされた足跡と交流」解説	富岡優子
第170回	11月21日(木)	18名	超希少な水草ガシャモク 小笠原騒動と白黒騒動	真鍋 徹 守友 隆

第171回	12月24日(火)	22名	「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」解説	真鍋 徹 宮元香織
第172回	1月23日(木)	21名	紫川の魚 その概要と研究知見 いのたびの中世文書コレクション	日比野友亮 中西義昌
第173回	2月21日(金)	20名	絵画・彫刻の修理 自然学習園にやってくる鳥たち	富岡優子 中原 亨

(2) 資料整理補助グループ

(2-1) 植物さく葉標本整理補助ボランティア

1) 登録人数 (平成31年4月1日現在)

6名

2) 活動実績

延べ日数 13日

整理標本点数 2,071点

その他 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月中旬以降は活動を休止。

3) 活動内容

植物さく葉標本の台紙への貼付(マウント作業)および標本情報の転記補助など。

(2-2) 小倉織復元補助ボランティア

1) 登録人数 (平成30年4月1日現在)

16名

2) 活動実績

延べ日数 112日

製作数 反物 約5m×5点、約2m×1点

3) 活動内容

館蔵の小倉織資料をもとにデザインした小倉織を織るとともに、糸紡ぎなどの関連作業などをおこなった。

平成30年12月24日から平成31年3月24日まで、歴史ぽけっとミュージアム No. 11において、小倉織の実演をおこなった。

1 4. 自然史友の会の活動

目 的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

617名（令和2年4月1日現在、以下同）

役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・佐藤政弘、幹事長：新海義治、事業担当幹事 11名、出版担当幹事 9名、庶務会計担当幹事 4名、会計監査 2名、評議員 43名、顧問 15名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）
第148号（7月18日発行）：「つくば市にてアカボシゴマダラに出会う」等5件の報告
第149号（10月18日発行）：「憧れの徳之島航路」等6件の報告
第150号（2月7日発行）：「フラクタル幾何学を用いて、アンモナイトの縫合線を「もう少し」考えました～続き～」等8件の報告
第151号（3月31日発行）：「山口県岩国市藤ヶ谷鉦山・柳井市石井鉦山巡検等8件の報告
特別号の発行：北九州の地質・岩石・鉱物（3月31日発行）
- (2) 研究部会の活動：例会の実施（計45回）
地質鉱物（第178～183回例会）、化石（第361～365回例会）、植物（第168～171回例会）、昆虫（10回の例会）、水生動物（4～11回）、両生・爬虫類（第231～240回例会）、鳥類（第129～130回例会）
- (3) 友の会野外観察会の実施
千石峡（宮若市）にて実施を予定していたが、台風のため中止。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室を6回実施。
- (5) 市民向け室内講座の実施
「植物細密画を描いてみよう！」
第1回 7月7日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者24名。
第2回 10月27日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者10名。
- (6) 会員向け室内講座の実施
「火山灰のなぞ」
8月11日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者12名。
- (7) 研究発表会の実施
4月29日（日）、博物館にて「コウモリ探検隊～キクガシラコウモリの生態～」等7件の発表。
参加者74名。
- (8) 会議等の実施
総会・親睦会（4月29日）、評議員会（文書審議1回）、三役・各担当幹事会代表会（3回）、出版担当幹事会（4回）、事業担当幹事会（4回）、庶務会計担当幹事会（1回）。

15. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

176名（令和2年3月31日現在）

役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長岩井勝治・渡辺善夫、会計3名、会計監査2名、
会員管理1名、講座運営担当13名、遺跡見学運営担当11名、広報・会誌編集5名

年会費

正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）500円

活動内容（令和元年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会 年10回開催、参加者総計 1250名

日時	講演タイトル	講師	人数
4月13日 (土)	細川忠利の国づくり	熊本大学永青文庫研究センター教授 稲葉 継陽 先生	127
5月11日 (土)	対外交易と玉づくりが支えた伊都国の繁栄	糸島市教育部文化課長 岡部 裕俊 先生	119
7月20日 (土)	ペリーの来航と琉球	岡山大学名誉教授 上原 兼善 先生	102
8月10日 (土)	【特集：花尾城と北九州の古城】 花尾城の調査成果	北九州市文化企画課埋蔵文化財担当係長 原田 智也	137
	花尾城を巡る北九州の城郭	九州歴史資料館学芸員 岡寺 良 先生	
9月7日 (土)	百舌鳥・古市古墳群 世界遺産へのあゆみ ～発掘調査成果をまじえて～	堺市世界文化遺産推進室 十河 良和 先生	131
10月12日 (土)	【特別展「九州発！棟方志功の旅」関連講座】 旅の人 棟方志功	棟方志功研究家 石井 頼子 先生	107
11月9日 (土)	【特別展「九州発！棟方志功の旅」関連講座】 北九州と棟方志功	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 富岡 優子	131
12月14日 (土)	沖ノ島の祭祀と遣唐使の航海	福岡県世界遺産室 大高 広和 先生	126
1月18日 (土)	なぜ八幡は筑前で小倉は豊前か —飛鳥時代の国決めについて—	小郡市埋蔵文化財調査センター所長 片岡 宏二 先生	152
2月15日 (土)	蒙古襲来と九州の仏像	佐賀県立博物館・美術館 竹下 正博 先生	118
3月21日 (土)	地方からの産業革命 —九州鉄道を中心として—	東京大学社会科学研究所 所長 中村 尚史 先生	中止

日時	場所	人数
5月25日(土)～5月26日(日)	呉市・福山市方面（大和ミュージアム、鞆の浦、広島県立歴史博物館）	32

6月9日(日)	萩方面(国指定史跡 萩反射炉跡、長登銅山跡)	28
9月27日(日)～9月29日(日)	関西方面(堺市大仙古墳、府立狭山池博物館)	45
11月17日(日)	大分方面(大友府内遺跡、大分市歴史資料館)	34
2月16日(日)	春日・大野城方面(奴国の丘・大野城心のふるさと館など)	中止

(3) 史跡めぐり 年4回開催、参加者総計 139名

16. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 令和元年度資料登録状況

令和元年度の自然史資料登録点数は以下のとおりである。

	平成30年度末 累計	令和元年度登録数					令和元年度末 累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系	82,460	60	0	1	52	113	82,573
地学系	38,465	9	129	0	7	145	38,610
合計	120,925	69	129	1	59	258	121,183

2) 令和元年度収集資料の概要

化石類や、蝶類ホロタイプ(4点)・パラタイプ(2点)、カミキリムシ科パラタイプ(6点)、植物さく葉標本、無脊椎動物標本、脊椎動物標本等の実物資料に加え、画像データや書籍等の多数の二次資料を寄贈いただくことができた。また、当館所蔵標本とミシガン大学古生物学博物館所蔵標本との交換や、採集による資料収集も実施した。さらに、当課の資料収集方針に基づき、マウンテンライオン等ネコ類頭骨模型等を購入した。

<主な寄贈資料>

- ・天草市御所浦町産裸子植物化石(1点)・インド産含有孔虫石灰岩(2点)・三笠市産白亜紀アンモナイト化石(1点)・ヤマアカガエル化石(3点)・プロトプテルム類化石(8点)・北九州市産外来植物(イヌコモチナデシコ)さく葉標本(11点)・希少種を含む植物さく葉標本(約800点)・国内外産蝶類標本(46箱)・シジミチョウ科標本(9600点)・チョウ類及びトンボ類標本(56箱)・オサムシ等の甲虫類(9,212点)・バシヨウカジキ剥製標本(1点)・魚類冷凍、液浸および剥製標本(各1点)・イリエワニ等爬虫類剥製標本(6点)・エゾライチョウやノスリ冷凍標本などの鳥類標本(32点)・ツシマヤマネコ標本(2点)・バビルサ属頭骨標本(1点)

<交換資料>

- ・チョウザメ類化石種 *Paleosephurus* の頭骨と顎のレプリカ(各1点)・クジラ類化石種 *Rodhocetus* の大腿骨・膝蓋骨・脛骨・指骨・不明骨のレプリカ(各1点)・クジラ類化石種 *Rasilosaurus* の恥骨・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・指骨のレプリカ(各1点)・クジラ類化石種 *Aritocetus* の頭骨・歯骨のレプリカ(各1点)

<主な採集資料>

- ・オキワナウラジロガシやフタバガキ属等の果実(3件)・衝突等によって死亡した鳥類の斃死体(9点)・国内産白亜紀標本(25ケース)・台湾産魚類標本(45点)

<主な購入資料>

- ・プラチナコガネ標本(一式)・サシバ剥製標本(1点)・マウンテンライオン等ネコ類頭骨模型(5点)

(2) 歴史課

1) 令和元年度資料収集状況

令和元年度の歴史資料の登録点数は以下のとおりである。

	平成 30 年度末 累計	令和元年度登録数					令和元年度末 累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	33,612	391	0	2	0	393	34,005
考古系	50,517	24	0	0	0	24	50,541
合計	84,129	415	0	2	0	417	84,546

2) 令和元年度収集資料の概要

寄贈は 18 件で総数 415 点。主なものとして、第 1 に、銘菓「鶴の子」を製造・販売した小倉の菓子屋「福田屋」に関する資料 143 点がある。内訳は絵画類 18 (収集品だけでなく当主と親交のあった画家の作品を含む)、墨蹟 39 (収集品)、歴史資料 86 (道具・古文書・古写真・骨董品等) となっている。棟方志功の版画作品や杉田久女の直筆色紙などもあり、大変貴重なものである。

第 2 に、北九州市を代表する大企業家の安川家および同家が創立・経営した株式会社安川電機などに関わる資料である。棟方志功作品を使用した安川電機のカレンダー 2 件・48 点、安川敬一郎の書 (扁額) と胸像、敬一郎の五男で東京オリンピックの安川第五郎の色紙やオリンピック貴賓室で使用した花瓶である。うち安川電機のカレンダーは令和元年度秋の特別展「九州発 棟方志功の旅」の開催に関わっての寄贈である。同様に北海道民芸協会が棟方志功作品を使用して発行し、棟方志功友の会が再販した棟方作品集『鯉雨』の寄贈もあった。特別展開催に伴う調査と研究、さらに開催による情報の提供が博物館資料の収集・充実につながった好個の事例とすることができる。

第 3 に、小倉南区の東谷郷土資料館旧蔵資料 43 点である。同館は昭和 55 年 (1980) に東谷興農会より提供された旧高橋家住宅の家屋を活用して開館した資料館で、失われつつあった農具や生活道具を収集・展示していた。家屋の解体と同館の移転が決まったが、展示品の全てを移転することができないため、今回調査をおこなって、可能な限り博物館で受け入れることにしたものである。東谷地域の往時の生活を知ることができる貴重な資料群である。

第 4 に、庶民生活史研究家の堀切辰一氏による古布コレクション「襤褸」の追加分である。江戸時代から昭和前期の外着や普段着、仕事着に加え、布団表など生活衣料・資料であり、素材も木綿・麻・絹・羊毛・化学繊維など多様であり、いずれもコレクションをさらに充実させるものである。なお堀切氏は令和元年 10 月に 94 歳で亡くなられた。ご本人からは今回が最後の寄贈となってしまった。謹んでご冥福をお祈りするとともに、今後のさらに研究と活用を進めることをご霊前にお誓いしたい。

このほかにも貴重な資料の寄贈があったが、紙幅の関係でここでは略する。いずれも展示等での活用が期待できるものである。

購入は 2 件・2 点。菊慈童図蒔絵海有水干鞍と菊慈童図蒔絵で、本来 1 組のものと思われる。本品は金梨地に古典文学の意匠 (文様は瀧、筆と硯、団扇、菊なので、「菊慈童」を表現している) が高蒔絵で全体にあらわされ、小倉藩主小笠原家の御定紋「三階菱」が金蒔絵で据えられた典型的な近世水干鞍であり、鏡ともども優品である。高い技術で入念に製作されたもので、所用者は大名クラスが想定される。居木裏には鞍骨が打たれた年代「元和九年八月日」と製作者の花押が刻まれている。同年は小笠原忠真の明石藩主時代に相当する。鞍打ち師の特定ができれば、小笠原家および忠真との関わりを知ることができるかもしれない。今後の課題である。

17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	所属/団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	壱岐、北九州産等の魚類化石 ならびに中生代魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	H31.4.1-R1.6.30
2	自然史	蛾類標本	蛾類標本の調査研究	日本蛾類学会	堀江清史・ 枝恵太郎・ 矢野高広	3	H.31.4.5-4.7
3	自然史	アリ類標本	寄贈予定のアリ類標本の整理		山根正気	1	H31.4.25-4.28
4	自然史	コモチナデシコ属さく葉標本	コモチナデシコ属の分布調査		中村 肇	1	H31.5.2
5	自然史	有明海産無脊椎動物等液浸標本	左記標本（閲覧者の寄贈標本）の整理・観察	ひのくにベントス研究	森 敬介	1	R1.5.28-5.29
6	自然史	壱岐、北九州産等の魚類化石 ならびに中生代魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	R1.7.1-9.30
7	自然史	豊浦層群の化石	豊浦層群の層序と脊椎動物化石に関する研究	ユタ大学	Benjamin T. Breeden	1	R1.7.29-7.31
8	自然史	アリ類標本	寄贈予定のアリ類標本の整理		山根正気	1	R1.8.2-8.5
9	自然史	維管束植物標本、哺乳類剥製 鳥類剥製、昆虫標本、液浸標本	高等学校等からの寄贈標本の調査	千葉県立中央博物館	斎木健一	1	R1.8.28-8.30
10	自然史	新生代軟体動物化石	新生代軟体動物化石の分類学的研究	熊本大学大学院先端科学研究部、ベトナム国立自然博物館研究者	小松俊文ほか	4	R1.9.8
11	自然史	北海道の白亜系産ノジュール	北海道の白亜系産ノジュールの形成メカニズムに関する研究	公益財団法人深田地質研究所	村宮悠介	1	R1.9.26
12	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	R1.10.1-12.31
13	自然史	蛾類標本	蛾類標本の調査研究	大阪府茨木市大池	谷田昌也	1	R1.11.14
14	自然史	頭足類化石5点	頭足類の分類・多様性に関する研究	北海道大学理学院進化生物学研究グループ	池上 森	1	R1.12.3-12.5
15	自然史	ズンガリプテルスのレプリカ等	翼竜の分類学的研究	熊本大学大学院先端科学研究部	小松俊文ほか	5	R1.12.11
16	自然史	山口県美祿市長登産方鉛鉱	山口県美祿市長登産方鉛鉱の鉛同位体比分析（考古遺物との比較研究）	山口大学大学院創成科学研究科	今岡照喜	1	R1.12.15
17	自然史	シロウオ液浸標本	天然シロウオの色素観察のため	九州大学	安武由矢	1	R1.12.25
18	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	R2.1.8-3.31
19	自然史	恐竜足跡化石（下関市吉母海岸産）	レプリカ作製（レプリカは下関市立考古博物館で常設展示予定）：下関市教育委員会からの委託	美術立体造形工房 ARTREK	角 孝政	1	R2.1.10, 1.11, 1.13, 1.21, 1.22
20	自然史	ソバガラガニ標本	ソバガラガニ標本の確認・研究	琉球大学熱帯生物圏センター	成瀬 貴	1	R2.1.28-1.29

21	自然史	蝶類標本	蝶類の研究		横地 隆	1	R2. 2. 1
22	自然史	甲虫類	甲虫類の分類・形態研究	Department of Entomology, National Museum, Natural History Museum, Prague, Czech Republic	Martin Fikacek	1	R2. 2. 17-2. 21
23	自然史	平尾台産出ニホンオオカミ頭骨	和歌山大学の標本等とのサイズ比較	岐阜大学名誉教授・総合研究大学院客員教員	石黒直隆	1	R2. 2. 19
24	自然史	アリ類標本	寄贈予定のアリ類標本の整理		山根正気	1	R2. 2. 28-3. 2
25	自然史	魚類化石（ナマズ類）	現生のピワコオオナマズとの比較骨学的研究	大阪経済法科大学	川瀬成吾	1	R2. 3. 3
26	自然史	昆虫標本	研究	北海道博物館	堀 繁久	1	R2. 3. 15
27	自然史	隕石類	芸術作品（写真）の題材	アメリカ（写真家）	杉浦邦恵	1	R2. 3. 24-3. 25
28	自然史	美祿層群産昆虫化石一式	美祿層群産昆虫化石の分類学的研究	九州大学理学府博士課程	大山 望	1	R2. 3. 30-3. 31
29	歴史	牧山古墳群唐草文鏡 馬場山遺跡双頭龍文鏡・小型仿製鏡、岩屋遺跡小型仿製鏡、郷屋古墳四禽鏡、御座1号墳三角縁神獸鏡、伝三本木三角縁神獸鏡（小倉高校蔵）	研究のため	島根大学法文学部	岩本 崇	1	H31. 4. 12
30	歴史	長行遺跡刀子、郷屋遺跡刀子、南方浦山古墳鉄剣、高津尾遺跡鉄剣、刀子、高島遺跡鉄剣	論文執筆のため	岡山大学	ライアン・ジョセフ	1	R1. 7. 2
31	歴史	伝雪舟筆 出山釈迦図（福聚寺寄託）	研究のため	山口県立美術館	荏開津通彦	1	R1. 7. 5
32	歴史	小笠原文書 183～200	研究のため	北九州市立大学	渡瀬淳子	1	R1. 7. 19
33	歴史	里田原遺跡出土木製剣柄レブリカ	研究のため	福岡大学	武末純一	1	R1. 8. 16
34	歴史	豊前小倉図、小倉藩土屋敷絵図	研究のため	仙台高等専門学校	相模賢雄	1	R1. 8. 29
35	歴史	有馬浦御陣御供諸士由緒記	調査のため	中央大学	有賀裕二	1	R1. 10. 11
36	歴史	小倉織 袴	調査のため		佐藤達幸	1	R1. 12. 26

18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	玖珠盆地産サケ属魚類化石	4	滋賀県立琵琶湖博物館	第27回企画展「海を忘れたサケ-ビワマスの謎に迫る-」での展示	R1. 5. 1-R1. 12

2	自然史	マダラガ類標本	16	堀江清史 (東京都)	蛾類の分類学的研究	H31. 4. 6-R2. 3. 31
3	自然史	台湾産セマルガムシ属標本	35	Fang-Shuo Hu (National Chung Hsing Univ., Taiwan)	台湾の甲虫研究 (一部は研究用に提供)。	H31. 4. 27-R2. 4. 26
4	自然史	オオアオホソゴミムシとして同定された個体	1	亀澤洋 (環境指標生物)	モリアオホソゴミムシとオオアオホソゴミムシとの分類学的関連性の検討	R1. 6. 5-R2. 6. 4
5	自然史	アンモナイト実物標本: 42点、アンモナイトレプリカ標本: 3点	45	天草市立御所浦白亜紀資料館	特別展「世界のアンモナイト」での展示	R1. 6. 10-9. 27
6	自然史	メガネウラ復元模型	1	大阪市立自然史博物館	特別展「昆虫」での展示	R1. 7. 13-9. 29
7	自然史	イナバテナガゴガネ・ホロタイプ	1	宜野湾市立博物館	企画展「化石展—土の中からお宝発見—」での展示	R1. 7. 24-. 9. 24
8	自然史	海棲哺乳類骨格標本	22	松井久美子 (九州大学総合研究博物館)	海棲哺乳類の多様化と海洋環境への適応に関する研究	R1. 8. 15-R2. 3. 31
9	自然史	<i>Sesarma palauense</i>	1	Peter Ng (Lee Kong Chian Natural History Museum, National University of Singapore)	<i>Sesarma palauense</i> の分類学的研究	R1. 8. 30-R2. 3. 31
10	自然史	<i>Campylotes kotzechi</i> : 1点、 <i>Campylotes desgodins</i> : 1点、 <i>Campylotes</i> sp. : 4点	6	堀江清史 (東京都)	蛾類の分類学的研究	R1. 10. 4-R2. 10. 3
11	自然史	石版 (リトグラフ用、ガの細密画)	1	北九州イノベーションギャラリー	秋企画展「いろ色ひろがる印刷展」での使用	R1. 10. 12-R1. 12. 25
12	自然史	ヒルの一種 (液浸標本、男女群島産) : 1点、ヨコエビの一種 (液浸標本、男女群島産) : 4点	5	中野隆文 (京都大学)	分類学的研究	R1. 11. 11-R2. 10. 31
13	自然史	プロトブテルム類後肢レプリカ、骨質歯鳥下顎レプリカ : 各1点	2	水巻町歴史資料館	企画展「水巻の化石と大地」での使用	R1. 11. 25-R2. 1. 19
14	自然史	ヒキダコウモリダコ生体復元模型、ヒキダコウモリダコ下顎レプリカ : 各1点	2	マリンワールド海の中道	「深海展-五島海底谷-」での展示	R1. 12. 9-R2. 5. 31
15	自然史	甲殻類標本 (<i>Tanaella konnritzia</i>) のタイプ標本	3	角井敬知 (北海道大学大学院)	タイナス目甲殻類の形質状態の再検討	R2. 1. 26-R2. 6. 31

16	自然史	イナズマチョウ属	8	横地隆 (尾張旭市)	蝶類の分類学的研究	R2. 2. 4-R2. 2. 3
17	自然史	キリン全身骨格	1	マリンワールド海の中道	特別展「海 Bone 陸 Bone -比べてみよう海の骨 陸の骨」での展示	R2. 3. 3-R2. 9. 30
18	自然史	ハンボンガラス幼鳥斃死体	1	山口典之 (長崎大学)	性的二型に係る研究	R2. 3. 3-R2. 10. 31
19	自然史	宗像市産哺乳類化石標本 (コリフォドン)	14	宮田和周 (福井県立恐竜博物館)	新生代における絶滅哺乳類相の研究	R1. 3. 20-R2. 3. 19
20	自然史	下関市吉母産恐竜足跡化石	2	下関市立考古博物館	常設展示室での展示 (中止)	R2. 3. 26-R2. 6. 1
21	自然史	ハムシ標本 (バラタイプ)	5	Jan Bezdek (Department of Zoology, Mendel University, Czech Republic)	ハムシ類の分類学的研究	R2. 3. 30-R3. 3. 29
23	歴史	碁石威伊予札萌黄糸威段替丸胴具足朱漆塗本小札紫糸威丸胴具足小笠原忠真画像【以上寄託品】小笠原忠政 (忠真) 書状清流話	5	明石市立文化博物館	企画展「城と明石の400年—明石藩の世界VII—」に出品	R1. 8. 20-R1. 10. 31
23	歴史	小笠原 (玲子) 家文書1, 2, 9, 44, 45 豊臣秀吉禁制、小笠原秀政寄進状、小笠原秀政法度	8	長野県立歴史館	秋季企画展「戦国 小笠原3代」に出品	R1. 9. 7-R1. 10. 14
24	歴史	小倉祇園太鼓西鍛冶町山車、古船場町山車	2	市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室	ラグビーワールドカップ ウェールズ代表チーム歓迎式	R1. 9. 15-R1. 9. 17
25	歴史	即非・柏殿像、如意、達磨画硯箱、永貞院画像、藕糸織阿弥陀聖衆来迎図、藕糸織靈山浄土図、藕糸織阿弥陀三尊来迎図 (寄託)	7	「黄檗」実行委員会 (鳥取県立博物館ほか)	企画展「殿様の愛した禅—黄檗文化とその名宝—」に出品	R1. 9. 25-R1. 11. 30
26	歴史	伝雪舟 出山釈迦図 (寄託)	1	山口県立美術館	「雪舟の仏画」展に出品	R1. 11. 2-R1. 12. 8

19. 画像等資料の貸出状況 (自然史・歴史)

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	ナマズ類の形態画像	6	琵琶湖博物館	ブックレット「ナマズの世界へようこそ」への掲載	R1. 4. 14
2	自然史	アンモナイト標本画像	3	天草市立御所浦白亜紀資料館	特別展「世界のアンモナイト」での展示	R1. 5. 31
3	自然史	プロトプレラム類展示風景および漸新世展示コーナーの画像：各1点	2	網走市立郷土博物館	特別展「網走の化石展」での使用	R1. 6. 11

4	自然史	アンモナイト復元図、モササウルス類の復元図およびアンモナイト類標本などの画像	15	バイオパーク株式会社	講座「化石採集体験」での配布資料への掲載	R1. 7. 1
5	自然史	下関市吉母産恐竜足跡化石画像	1	吉母自治連合会	毘沙ノ鼻展望公園に設置する説明看板に使用	R1. 7. 17
6	自然史	テイオウゼミおよびミンダナオオオヤマママユの標本画像	2	ハユマ	青葉出版「理科プレテスト2020年度版」での使用	R1. 7. 31
7	自然史	ペルビアンジャイアント生体画像	1	アズマックス	NHK BS「あなたも行ける！世界の過激&絶景アドベンチャーツアー」番組内で使用予定	R1. 8. 5
8	自然史	アメリカイチョウガニ標本画像	1	カガミ	朝日放送テレビ「パネルクイズアタック25」番組内で使用予定	R1. 8. 29
9	自然史	ディディモセラス、ブラビドセラス、ユーボストリコセラスなどの画像	6	日本古生物学会	日本古生物学会の公式 Twitter での使用（研究紹介）	R1. 9. 12
10	自然史	当館所蔵国内産水生植物標本の採集データ	524	国立環境研究所機構変動適応センター	気候変動に伴う野生動植物の分布変化解析に使用	R1. 9. 26
11	自然史	更新世淡水魚化石群、脇野魚類化石群の画像	2	伊勢出版	笠倉出版社刊「日本の古生物（仮）」における「県の化石」コーナーでの使用	R1. 10. 10
12	自然史	ケツアルコアトルス生体復元模型およびズンガリプテルス地上姿勢復元骨格の画像	2	小学館・第二児童学習局	「映画ドラえもん のび太の新恐竜 発掘ブック」への掲載	R1. 10. 15
13	自然史	ナチュラリス生物多様性センター所蔵のトキ剥製の画像（当館撮影画像）	1	サンライズ出版	「街道でめぐる滋賀の歴史遺産（滋賀県教育委員会発行）」への掲載	R1. 10. 29
14	自然史	アンモナイト (<i>Arietites</i>) 標本画像	1	三笠市立博物館	三笠市立博物館・同ボランティアの会共催企画展「北海道のアンモナイト チューロニアン編」での使用	R1. 12. 3
15	自然史	アンモナイト (<i>Arietites</i>) 標本画像	1	三笠市立博物館ボランティアの会	三笠市立博物館・同ボランティアの会共催企画展「北海道のアンモナイト チューロニアン編」に係る冊子への掲載	R1. 12. 3
16	自然史	スクレロケファルス、オルサカンサス、ペンギンモドキ、スー、ダンクルオステウス、アカントーデス、エデスタス、ケイスル、ヂクラヌス、カルニオディスカス、レプトダス、シュードバラレゴサレス、シュードニユークセラス、リパロセラス、レビドーテス、イヌブナ、バクトリテス、アゴニアタイテス、ヌドリコッティア、ハイボフィロセラス、キルトセラス、直方隕石、月の石、ヒラコテリウム、ティロサウルス、サイクロクリベウス石灰岩およびパン皮状火山弾の画像:各1点	27	学研プラス	学研の図鑑 LIVE シリーズの『鉱物・岩石・化石』への掲載	R1. 12. 6
17	自然史	下関市吉母産恐竜足跡化石画像	1	山口県立山口博物館	令和2年度開催特別展の広報素材としての使用	R2. 1. 20
18	自然史	水巻町産プロトプテルム類後肢三条レプリ	1	水巻町歴史資料館	常設展パネルに使用	R2. 1. 25

		カ画像				
19	自然史	ケツアルコアトルス全身骨格、ケツアルコアトルス生体復元模型、ソルデス全身骨格、ズンガリプテルス全身骨格および御船層群産翼竜化石の画像：各1点	5	群馬県立自然史博物館	企画展「空にいでんた勇者たち」における展示パネルやガイドブックでの使用	R2. 2. 20
20	自然史	漣痕（リップルマーク）画像	1	数研出版株式会社	教科書「高等学校地学基礎」への掲載	R2. 3. 2
21	自然史	三葉虫、トリゴニア、プレラノドン、カルカロクレス（カルカロドン）およびナウマンゾウの画像：各1点	5	第一学習社	教科書「地学基礎」への掲載	R2. 3. 4
22	歴史	九州小倉合戦図、豊国名所（円通庵、うたつか、香春口）、小倉藩土屋敷絵図、日明一本松塚古墳出土須恵器、同馬具、御座1号墳出土三角縁獣文三神三獣鏡片、八旗神社古墳出土金銅製刀装具、足立山山頂出土古鏡、銅製罽口（慈濟寺）	11	有限会社海鳥社	『北九州歴史散歩 豊前編』に掲載	H31. 3. 27
23	歴史	小笠原忠真画像（寄託）	1	株式会社毎日放送	「サタデープラス」小倉紹介映像のなかで使用	H31. 4. 2
24	歴史	「北九州空襲被災状況」図（『北九州・戦時下の市民のくらし』展図録より）	1	聞き書きボランティア「平野塾」	『あの日1945・8』第3集に掲載	R1. 11. 15
25	歴史	足利尊氏寄進状（複製、原資料は興国寺所蔵）	1	一般社団法人北九州シニア応援団	生活情報誌『さくら』の「北九州歴史文化遺産」で紹介	R2. 1. 10
26	歴史	小笠原忠真画像（寄託）	1	神戸新聞明石総局	「明石城築城400年」の書籍掲載のため	R2. 1. 29
27	歴史	小笠原忠真画像（寄託）	1	NHKエンタープライズ	且過市場紹介映像のなかで使用	R2. 1. 30
28	歴史	宗祇馬乗図	1	北九州市立文学館	『わたしたちのまちの文学』掲載	R2. 3. 4
29	歴史	明治時代の小倉織、浮世絵「山海愛度図絵」「諸工職業鏡」	3	北九州市広報室	市政番組「プライドK～北九州イチバン物語～」の小倉織紹介の映像のなかで使用	R2. 3. 10

20. 研究業績

(1) 普及課

1) 論文など

蓑島悠介・真鍋 徹・下村通誉・上田恭一郎. 2020. 塗り絵を利用した子供向けアンケート手法の有効性. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 18, 43–48.

2) 書籍・普及書など

なし

3) 学会等講演

なし

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究 (B) . 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者：上田恭一郎. 研究分担者：真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介・江頭幸士郎. 2017-2020 年度.

(2) 自然史課

1) 論文など

蓑島悠介・真鍋 徹・下村通誉・上田恭一郎. 2020. 塗り絵を利用した子供向けアンケート手法の有効性. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 18, 43–48.

Mori, Y., Shigeno, M.^{*1}, Miyazaki, K. and Nishiyama, T. 2019. Peak metamorphic temperature of the Nishisonogi unit of the Nagasaki Metamorphic Rocks, western Kyushu, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 114, 170–177.

Miyazaki, K., Suga, K., Mori, Y., Iwano, H., Yagi, K., Shigeno, M.^{*1}, Nishiyama, T., Danhara, T. and Hirata, T. 2019. Kinetics and duration of metamorphic mineral growth in a subduction complex: zircon and phengite in the Nagasaki metamorphic complex, western Kyushu, Japan. *Contributions to Mineralogy and Petrology*, 174, 91.

Misaki, A., Okazaki, Y., Mizuno, Y. and Matsunaga, T. 2020. Early Cenomanian (Late Cretaceous) ammonoids from the Miyanojima Formation in the Sakawa area, Shikoku, southwestern Japan. *Paleontological Research*, 24, 72–81.

Ohashi, T. and Hasegawa, Y. New species of Plotopteridae (Aves) from the Oligocene Ashiya Group of northern Kyushu, Japan. *Paleontological Research* (in press).

杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森 三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森 ふさ恵・富永重稔・葉山 彰・船井泰乃・宮田 薫. 2020. 独自活動と博物館への協力. *ジオ&バイオ研究会報告書*, 9, 13–44.

Minoshima, Y. N., Seidel, M., Wood, J. R., Leschen, R. A. B., Gunter, N. & Fikáček, M., 2018. Morphology and biology of the flower-visiting water scavenger beetle genus *Rygmodes* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Entomological Science*, 21 (4), 363–384. (日本昆虫学会 2019 年度論文賞)

Inahata, N. and Minoshima, Y. N. 2019. Occurrence of the tribe Chaetarthriini in Japan (Coleoptera: Hydrophilidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 25 (1), 95–96.

Minoshima, Y. N. 2019. First known larva of omicrine genus *Psalitrus* d'Orchymont (Coleoptera, Hydrophilidae). *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 66 (1), 107–118.

Minoshima, Y. N. 2019. Taxonomic status of *Enochrus vilis* (Sharp) and *E. uniformis* (Sharp) (Coleoptera, Hydrophilidae). *Insecta Matsumurana, New Series*, 75, 1–18.

Minoshima, Y. N. and Inahata, N. 2019. First record of *Paracymus atomus* Orchymont (Coleoptera, Hydrophilidae)

- from Japan, with key to the Japanese species of *Paracymus*. *Elytra*, New Series, 9 (2), 285–288.
- Seidel, M., Minoshima, Y. N., Leschen, R. A. B. and Fikáček, M. Phylogeny, systematics and rarity assessment of New Zealand endemic *Saphydrus* beetles and related enigmatic larvae (Coleoptera: Hydrophilidae: Cylominae). *Invertebrate Systematics*. (in press)
- 藁島悠介. 2019. 甲虫コレクションガイド 17 北九州市立自然史・歴史博物館の甲虫標本. さやばねニューシリーズ, (36), 11–14.
- 藁島悠介. 2020. 日本から記録された *Enochrus affinis* への和名の提唱 (鞘翅目・ガムシ科・ヒラタガムシ亜科). さやばねニューシリーズ, (37), 46–47.
- Matsui, M., Kawahara, Y., Nishikawa, K., Ikeda, S., Eto, K., and Mizuno, Y. 2019. Molecular phylogeny and evolution of two *Rhacophorus* species endemic to mainland Japan. *Asian Herpetological Research*, 10 (2), 86–104.
- Hamanaka, K., Kurita, T., Eto, K., Morikawa, T., Deka, E. Q., Alaudin, N. A. and Hossman, M. Y. 2019. An update of herpetofauna in Bako National Park, Sarawak, Malaysia with a critical review. *Malayan Nature Journal*, 71, 163–173.
- Pomchote, P., Khonsue, W., Sapewisut, P., Eto, K. and Nishikawa, K. 2020. Discovering a Population of *Tylototriton verrucosus* (Caudata : Salamandridae) from Thailand : Implications for Conservation. *Tropical Natural History*, 20 (1), 1–15.
- Sumod, K. S., Hibino, Y., Manjabrayakath, H. and Sanjeevan, V. N. 2019. Description of a new species of deep-water snake eel, *Ophichthus mccoskeri* (Ophichthidae: Ophichthinae) from Andaman Sea, India. *Zootaxa*, 4686, 112–118.
- Hibino, Y., Ho, H.-C. and McCosker, J. E. 2019. A new species of *Muraenichthys* (Anguilliformes: Ophichthidae) from Taiwan, with redescription of *Muraenichthys thompsoni* Jordan & Richardson, 1908. *Zootaxa*, 4702, 41–48.
- Sawai, E., Hibino, Y. and Iwasaki, T. 2019. A rare river stranding record of sharptail sunfish *Masturus lanceolatus* in Fukuoka Prefecture, Japan. *Biogeography*, 21, 27–30.
- Hibino, Y., Chiu, Y.-C., Chen, H.-M. and Shao, K.-T. 2019. Two new species of the genus *Ophichthus* from the western central Pacific Ocean, with a redescription of *Ophichthus megalops* Asano, 1987 (Anguilliformes: Ophichthidae). *Zootaxa*, 4702, 140–154.
- Quang V. V., Hibino, Y. and Ho, H.-C. 2019. A new species of the snake eel genus *Ophichthus*, with Additional Records from Viet Nam (Anguilliformes: Ophichthidae). *Zoological Studies*, 58, 43 (published online).
- Hibino, Y., Ogata, Y., Endo, S., Wada, M., Murase, A. and Mochioka, N. 2019. First records of a rare snake eel, *Leiuranus versicolor* (Anguilliformes, Ophichthidae) from Japan. *FishTaxa*, 4 (3), 145–149.
- 荒木萌里・日比野友亮・本村浩之. 2019. 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州沿岸初記録のタカマユウツボ. *Nature of Kagoshima*. Published online.
- 渋谷駿太・高久 至・日比野友亮・本村浩之. 2019. 水中写真に基づく屋久島初記録のキリアナゴ. *Nature of Kagoshima*. Published online.
- 日比野友亮・久木田直斗. 2019. 鹿児島県から得られたフナ属の 1 種とコイの交雑個体の記録. *Nature of Kagoshima*. Published online.
- 日比野友亮. 2019. 書評 岩波科学ライブラリー286 結局、ウナギは食べていいのか問題. *魚類学雑誌*, 66 (2), 269–270.
- 日比野友亮・木村祐貴. 2020. 大阪湾から得られたフチナシウミヘビ *Ophichthus sangjuensis* (ウナギ目ウミヘビ科) の記録. *魚類学雑誌*. 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-048
- Nakahara, T., Junnosuke, H., Booton, R. and Yamaguchi, R. 2020. Extra molting, cannibalism and pupal diapause under unfavorable growth conditions in *Atrophaneura alcinous* (Lepidoptera: Papilionidae). *Entomological Science*, 23, 57–65.
- 中原 亨. 2019. ミュージアムクリップ「春の特別展『獣は毛もの』実施報告 —動物の『毛』を、見て、

さわって、比べてみる」. 博物館研究. 54 (6), 41.

Nakanishi, N. and Izawa, M. 2019. Rediscovery of otters on the Tsushima Islands, Japan by trail cameras. *Mammal Study*, 44 (3), 215–220.

Okawara, Y., Nakanishi, N. and Izawa, M. 2020. Short-Term Fruiting Phenology Affects the Diet of an Omnivorous Carnivoran, the Tsushima Marten *Martes melampus tsuensis*. *Mammal Study*, 45 (1), 49–61.

Takeshita, F. and Murai, M. 2019. Courtship interference by neighboring males potentially prevents pairing in fiddler crab *Austruca lactea*. *Behavioral Ecology and Sociobiology*, 73, 164.

2) 書籍・普及書など

Misaki, A. 2020. Behind the scenes at the museum: Kitakyushu Museum of Natural History & Human History, Japan. *Palaeontology Newsletter*, 103, 59–61.

蓑島悠介. 2019. がむしといふいきもの 標本はラベルが命. ぎよぶる 第8号. pp. 52–53. 北九州・魚部.

蓑島悠介. 2020. がむしといふいきもの 小さなヒラタガムシのはなし. ぎよぶる 第9号. 北九州・魚部 (印刷中) .

Hibino, Y. 2019. Chlopsidae, Muraenidae, Ophichthidae, and Muraenesocidae. Koeda, K. and Ho, H.-C. (eds.) *Fishes of Southern Taiwan. Volume I.* pp. 84–103, 118–157. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung, Taiwan. 2019.

江頭幸士郎. 2020. 筑紫の固有種となったチクシブチサンショウウオ. わたしたちの自然史 第151号. pp. 22–23. 北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会, 北九州市.

3) 学会等講演

坂倉真衣・真鍋 徹. 2019. 博物館での「出会い (encountering)」は、日常生活の中でどのように形を変えていくか (2) –来館者の博物館体験を理解する試み–. 日本質的心理学会第16回全国大会. 明治学院大学 (東京都港区) .

Mori, Y., Shigeno, M.*1, Ujiie, K., Noro, K. and Nishiyama, T. 2019. Serpentinite dehydration in subduction shear zones formed at source depths of slow earthquakes. JpGU Meeting 2019. Makuhari Messe.

川口允孝・長谷中利昭・岡村幸樹・細野高啓・森 康・池辺伸一郎. 2019. 阿蘇黄土 (リモナイト) の岩石学的特徴. 日本地質学会. 山口大学 (山口市).

御前明洋. 2019. 上部白亜系和泉・外和泉層群産ノストセラス科異常巻アンモノイドの産状. 日本古生物学会 2019 年年会. 静岡大学 (静岡市).

Urano, Y., Sugimoto, Y., Tanoue, K., Matsumoto, R., Kawabe, S., Ohashi, T. and Fujiwara, S. 2019. The tri-layered keratinous sheath on the upper beak bone of chicken and its relevance to the form and growth orientation of the beak. The 12th International Congress of Vertebrate Morphology. Prague, Czech Republic.

太田泰弘. 2019. 大地の視点からの国土理解の推進：自然史系博物館の SDGs へのアプローチ福岡県環境教育学会 第22回年会. 久留米大学 (久留米市) .

太田泰弘. 2019. 北九州の食のブランドを活用したジオ体験のデザイン, 日本地質学会第126年学術大会. 山口大学 (山口市) .

太田泰弘・安藤奏音. 2019. 社会科学的視点から見た洞窟学：平尾台・藤戸洞を例として. 日本洞窟学会第45回大会. 和歌山県白崎大会. 和歌山県立白崎青少年の家 (由良町) .

太田泰弘. 2019. 青少年期における地質学的, 自然体験の重要性について—藤田哲也博士の藤戸洞 (平尾台) の発見を例示して—. 日本地質学会西日本支部 令和元年度総会・第171回例会 (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会中止、要旨にて業績として認定) .

- Fikáček, M., Minoshima, Y. N., Seidel, M. and Leschen, R. A. B. 2019. Larvae without adults: the case of enigmatic New Zealand hydrophilid larvae. Immature Beetles Meeting 2019. Charles University in Prague, Prague.
- 蓑島悠介. 2019. コマルガムシとキタコマルガムシは別種か?. 日本昆虫学会第 79 回大会, 弘前大学, 弘前市.
- 蓑島悠介. 2019. コヒラタガムシとその類似種の分類学的再検討 (鞘翅目・ガムシ科). 第 10 回日本甲虫学会. 九州大学 (福岡市).
- 江頭幸士郎・中原 亨・岡本 卓・栗山武夫. 2019. ダンジョヒバカリの現状について. 日本爬虫両生類学会. 岡山理科大学 (岡山市).
- 岡本 卓・栗山武夫・江頭幸士郎・長谷川雅美. 2019. 男女群島のニホントカゲ集団の形態的・生態的特徴. 日本爬虫両生類学会. 岡山理科大学 (岡山市).
- 松井正文・西川完途・江頭幸士郎. 2019. マレーシア産コオロギヒキガエル属について. 日本爬虫両生類学会. 岡山理科大学 (岡山市).
- 福山伊吹・松井正文・西川完途・江頭幸士郎・ヤジッド=ホスマン. 2019. タカネチヨボグチガエルの系統分類学的研究. 日本爬虫両生類学会. 岡山理科大学 (岡山市).
- 江頭幸士郎. 2020. 「かべちよろ」ってなに? 博物館展示を用いたアンケート調査の試み. 九州両生爬虫類研究会. 北九州市立自然史・歴史博物館 (北九州市).
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・望岡典隆. 2019. ニホンウナギは滝を登るのか. 日本水産学会秋季大会. 福井県立大学 (永平寺町).
- 田畑諒一・富永浩史・中島 淳・鬼倉徳雄・Kim, S.-K.・Yu, J.-N.・日比野友亮・柿岡 諒・渡辺勝敏. 2019. ニゴイとコウライニゴイの遺伝的集団構造と系統地理. 日本魚類学会年会. 高知大学 (高知市).
- 日比野友亮. 2019. フィリピンから得られたウミヘビ科ムカシウミヘビ属の 1 未記載種. 日本魚類学会年会. 高知大学 (高知市).
- 遠藤詢介・日比野友亮・望岡典隆. 2019. 北西太平洋に出現するウミヘビ科魚類葉形仔魚の形態と DNA バーコーディングによる種同定. 日本魚類学会年会. 高知大学 (高知市).
- 日比野友亮. 2020. 男女群島男島で採集・目視された魚類. 魚類生態研究会. 九州大学 (福岡市).
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・坂上 嶺・望岡典隆. 2020. 石倉カゴの効果検証 7: 黄ウナギの移動性と石倉カゴを利用する個体の移動パターン. 日本水産学会春季大会. (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会中止、要旨にて業績として認定)
- 坂上 嶺・佐藤 駿・松重一輝・安武由矢・日比野友亮・眞鍋美幸・内田和男・望岡典隆. 2020. 石倉カゴの効果検証 8: 石倉カゴによる被食減耗軽減効果の検証. 日本水産学会春季大会. (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会中止、要旨にて業績として認定)
- 日比野友亮. 2020. ニホンウナギを対象とした伝統漁法うなぎ石倉漁の現状把握. 日本水産学会春季大会. (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会中止、要旨にて業績として認定)
- 中原 亨. 2019. 自動撮影カメラによって記録された人工水場におけるカラス類の行動. 第 14 回バードリサーチ大会. 九州大学 (福岡市).
- 中原 亨・山口典之・樋口広芳. 2019. カンムリウミスズメの移動経路・離着水行動と海流の関係性. 日本鳥学会 2019 年度大会. 帝京科学大学 (東京都足立区).
- 中原 亨. 2020. 鳥類の渡りパターンの変異はどのようにして存在するのか? -先行研究から見えること- 日本生態学会第 67 回全国大会. (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会中止、要旨にて業績として認定)
- 中西 希・伊澤雅子・山本以智人・蔭浦志寿香・沼倉真帆. 2019. ツシマヤマネコ亜成獣の分散行動と環

境利用. 日本哺乳類学会. 中央大学 (東京都文京区) .

Nakanishi, N. and Suzuki, A. 2019. Conservation of leopard cats in the islands of Iriomote and Tsushima, Japan. 2nd International Small Wild Cat Conservation Summit. Colombo, Sri Lanka.

竹下文雄. 2019. ハクセンシオマネキ雌の配偶者サンプリング：地表温と産卵までの日数の影響. 日本動物行動学会. 大阪市立大学 (大阪市) .

竹下文雄. 2019. ハクセンシオマネキのメスによる配偶相手のサンプリング：産卵までの日数とメスサイズに応じた地表温度の訪問雄数に対する効果. 日本甲殻類学会. 東京海洋大学 (東京都港区) .

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究 (B) . 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者：上田 恭一郎. 研究分担者：真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介・江頭幸士郎. 2017–2020 年度.

基盤研究 (B) . 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築. 研究分担者：真鍋 徹 (研究代表者：三橋弘宗) . 2019–2023 年度.

新学術領域研究. スロー地震の地質学的描像と摩擦・水理特性の解明. 研究分担者：森 康 (研究代表者：氏家恒太郎) . 2016–2020 年度

基盤研究 (C) . 新たな変成反応進行過程の提案と反応継続時間の推定. 研究分担者：森 康・重野未来*1 (研究代表者：宮崎一博) . 2016–2019 年度.

基盤研究 (C) . 付着・穿孔生物化石から絶滅軟体動物の古生態を探る. 研究代表者：御前明洋. 2019–2022 年度.

基盤研究 (C) . 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者：大橋智之 (研究代表者：田上 響) . 2018–2021 年度.

若手研究 (B) . 昆虫の陸上進出に伴う形態進化パターンの解明. 研究代表者：蓑島悠介. 2017–2019 年度.

国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) . ヒキガエル利用からホテル利用へ：毒源を変化させたヘビ類の進化過程の探求. 研究分担者：江頭幸士郎 (研究代表者：森 哲) . 2018–2022 年度.

若手研究. 高い生物多様性を内包する里山環境の変遷を追う：指標種ノスリを用いた検証と予測. 研究代表者：中原 亨. 2019–2021 年度.

基盤研究 (C) . イリオモテヤマネコの生存を支える西表島の食物網構造の解明. 研究代表者：中西 希. 2018–2020 年度.

基盤研究 (C) . ライバル雄の妨害がドライブするシオマネキ類の配偶者選択におけるシグナル系の複雑化. 研究代表者：竹下文雄. 2019–2022 年度.

【その他の補助金】

全科協 ICOM 京都大会 2019 参加登録料助成. 助成対象者：中原 亨.

*1：受託研究員

(3) 歴史課

1) 論文・著書など

宮元香織 (編) . 2020. 長泉寺遺跡. (北九州市文化財調査報告書第 166 集) . 北九州市教育委員会, 110 pp.

上野晶子・守友 隆. 2020. 【資料紹介】小笠原文書による七五三膳の復元. 北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B 類 (歴史) 第 17 号. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 39 (10) –48 (1) .

富岡優子 (編) . 2019. 棟方志功の旅—彫り起こされた足跡と交流—. (特別展図録) . 北九州市立自然史・

歴史博物館, 128 pp.

守友 隆. 2019. 九州に移封された小笠原氏. 長野県立歴史館『戦国 小笠原三代—長時・貞慶・秀政—』, pp. 186–187.

守友 隆. 2019. 文化 8 年朝鮮通信使応接における上使小笠原忠固と小倉藩朝鮮通信使研究, 第 28 号. 朝鮮通信使学会. pp. 129–174.

守友 隆. 2020. 【資料紹介】小倉藩小笠原家の御家騒動に関する史料の紹介—企画展「小笠原騒動と白黒騒動」より. 北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B 類 (歴史) 第 17 号. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 1 (48) –38 (11) .

中西義昌. 2019. 戦国後期北部九州の拠点城郭に関する一考察. 北部九州中近世城郭研究会編『九州の城』第 2 号, pp. 60–67.

2) 書籍・普及書など

日比野利信. 2019. 近代都市門司の形成と発展. 『西日本文化』第 490 号. 西日本文化協会, pp. 6–9.

日比野利信. 2019. 北九州市立自然史・歴史博物館の歴史系展示. 『北九州文化』第 37 号. 北九州文化連盟, pp. 78–79.

富岡優子・鹿毛浩之. 2019. 棟方志功画伯と明専会. 『明専会報』第 902 号, pp. 8–11.

守友 隆. 2019. 史実の「小笠原騒動」. 松竹・博多座編『平成中村座小倉城公演』筋書.

守友 隆. 2020. 秀吉・家康と北九州. 『耐火物』第 72 巻 3 号, pp. 103–107.

3) 学会等講演・報告

日比野利信. 2019. 博物館法の此岸と彼岸を超えて—文化庁のクラスター形成支援事業と北九州市—. 九州史学研究会歴史資源部会.

守友 隆. 2019. 近世後期小倉藩における献納と手永織—初入国における「差上」について—. 九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門手永制研究会.

中西義昌. 2019. 中世史料の分布から歴史的景観を復元する研究手法—戦国期の筑後川中流域と筑後国守護大友氏の関係から—. 日本景観生態学会第 29 回京都大会.

中西義昌. 2019. 豊前国に見る畝状空堀群の様相. 第 6 回九州城郭研究大会.

中西義昌. 2019. 大友氏の拠点城郭と北部九州支配の展開. 北部九州中近世城郭研究会 20 周年記念集会.

4) 外部資金獲得状況

【科学研究費補助金】

基盤研究 (C) . 石炭資源の発見と近代政治システムの形成. 研究代表者: 日比野利信. 2019–2021 年度.

基盤研究 (B) . 服飾からみる近代日本の形成—ハイカラと上品. 研究分担者: 日比野利信 (研究代表者: 乾 淑子) . 2017–2019 年度.

基盤研究 (C) . 日本古代菓子の実態解明と再現活用に関する研究—東アジアの食膳研究その 1—. 研究分担者: 宮元香織 (研究代表者: 前川佳代) . 2019–2021 年度.

若手研究 (B) . 幕末における海外文化の収集活動と翻訳について. 研究代表者: 上野晶子. 2013–2019 年度.

若手研究 (B) . 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究. 研究代表者: 富岡優子. 2014–2019 年度.

【その他の補助金】

出光文化福祉財団平成 28 年度調査・研究助成,棟方志功の足跡 海道シリーズの成立と北九州の民藝運動
を中心に, 研究代表者: 富岡優子. 2017-2019 年度.

2 1. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 (自然史) 第 18 号 (2020 年 3 月 31 日発行)

Keiichi Kakui. First record of a tanaidacean crustacean fed upon by an arrow worm (Chaetognatha). pp. 1-4. [ヤムシ類に捕食されたタナイス目甲殻類の初報告]

Takashi Yokochi and Fidel Bendanillo. List of the Adoliadini (Lepidoptera, Nymphalidae) of the Philippine Islands (Part 1). pp. 5-42. [フィリピン産 Adoliadini 族のリスト(第 1 部)]

蓑島悠介・真鍋 徹・下村通誉・上田恭一郎. 塗り絵を利用した子供向けアンケート手法の有効性. pp. 43-48. [Effectiveness of method of questionnaire survey for children using picture coloring sheet]

(2) 研究報告 B 類 (歴史) 第 17 号 (2020 年 3 月 31 日発行)

【資料紹介】

上野晶子・守友 隆. 小笠原文書による七五三膳の復元. pp. 39(10)-48(1).

守友 隆. 小倉藩小笠原家の御家騒動に関する史料の紹介—企画展「小笠原騒動と白黒騒動」より. pp. 1(48)-38(11).

(3) 図録

『九州発! 棟方志功の旅—彫り起こされた足跡と交流—』(2019 年 10 月発行)



年 報

令和元年度

令和2年11月6日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY